



公益社団法人日本環境教育フォーラム

清里ミーティング2024

(通算38回目)

「共感されるストーリーのつくりかた」

報告書

日 時：2024年12月6日（金）～8日（日）＜2泊3日＞

会 場：公益財団法人キープ協会 清泉寮、山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター

主 催：公益社団法人日本環境教育フォーラム

現地開催事務局：公益財団法人キープ協会

後 援：環境省、文部科学省、林野庁、山梨県、独立行政法人国立青少年教育振興機構、

ESD活動支援センター（全国）、関東地方ESD活動支援センター、

2030生物多様性枠組実現日本会議、

特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議(ESD-J)、

一般社団法人日本環境教育学会

協 賛：株式会社サンエー印刷

サントリーホールディングス株式会社

公益財団法人SOMPO環境財団

SOMPOホールディングス株式会社

瀧本株式会社

電源開発株式会社

日能研

株式会社みくに出版

参加者数：98名

目 次

開催趣意	1
スケジュール	2
開会式	5
全体会	6
1 日目 全体会 1: 自然体験のものさし～変化を測る、伝える～	6
2 日目 全体会 2: この瞬間を共有したい！～センス・オブ・ワンダーを伝える言葉	10
ポスターセッション	14
ワークショップ	16
閉会式	20
その他の企画	21
清里ミーティングこれまでの実績	21

開催趣意

清里ミーティングは、1987年9月、自然体験・野外教育・環境教育に関心を寄せる人たちが山梨県清里に集まり「第1回清里フォーラム」を開いたことからスタートした。毎年、自然学校等の環境団体、企業、行政、教育機関等から約200名の関係者が参加し、環境教育に関心のある人たちの交流の場として30年以上続いてきた。

環境分野以外の多様なステークホルダーとの協働も目指し、広く「持続可能な社会に貢献するひとづくりに携わる人たちの学び合いの場」として、多様性とパートナーシップによって環境問題・社会課題解決のヒントを探る。2018年には、「平成30年度持続可能な社会づくり活動表彰」（主催：公益社団法人環境生活文化機構）にて環境大臣賞を受賞した。

2020年以降は新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、オンライン形式で開催。各種制限が緩和されたことに伴い、37回目を迎える2023年に清里ミーティングの原点である清泉寮において対面形式での開催が再開した。

■ 清里ミーティングの目的

1. 最先端の情報や手法を学ぶ場を提供し、参加者の活動をエンパワメントする。
2. 参加者同士のネットワークを構築し、協働を促進する。
3. 1、2をもって持続可能な社会に向けて行動する人を増やす。

2015年に国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）に向け、環境教育だけではなく、他分野とのパートナーシップがより重要となっている。清里ミーティングも環境教育以外のより広い分野からの参加者を募り、新しいコラボレーションが生まれることをねらっている。お互いの活動を理解し、認め合い、共に考え、力を合わせていける場の基盤づくりを目的としている。

■ 今年の特徴

日本の自然体験活動は、この30年で全国的に実践されるようになった。しかし、誰もが当たり前に参加するものになるためには、さらに多くの人に自然体験活動の意義が伝わる言葉（ストーリー）が必要である。これから活動に参加する人、実践者になっていく人たちの背中を押すような共感を呼ぶストーリーを描き、さらに自然体験活動が広がっていくためのヒントを探る3日間とした。

今回の清里ミーティングでは、自然体験の効果測定の考え方や最新の研究の動向を知るとともに、現場で起こる子どもたち一人ひとりの心の動きをキャッチし、そのストーリーを周囲に語ることで仲間を増やしていくことや、多様なセクターとのシナジーによってより大きな展開を起こすヒントをともに探った。



スケジュール

日程：2024年12月6日（金）～8日（日）＜2泊3日＞
会場：公益財団法人キープ協会 清泉寮、山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
参加費：（2泊3日）JEEF会員 40,000 円、一般 45,000 円、学生 35,000 円
※会員からの紹介割引（3,000 円）あり。
主催：公益社団法人日本環境教育フォーラム（Japan Environmental Education Forum：以下、JEEF）
現地開催事務局：公益財団法人キープ協会

■ タイムスケジュール

清里ミーティング2024タイムテーブル

時間	プログラム	会場
12月6日（金）	11:15 初めましての方におすすめ！さきどり交流会	新館ホール
	12:00 受付開始	新館フロント前
	13:00 開会挨拶	新館ホール
	13:05 オリエンテーション（スケジュール説明、注意事項、スタッフ紹介）	
	13:20 全体会1：自然体験ののさし～変化を測る、伝える～ ＜ゲスト＞ 高山 範理さん（森林総合研究所 チーム長） 中野 友博 さん（びわこ成蹊スポーツ大学 副学長） ＜ファシリテーター＞ 菅山 明美さん（株式会社ハッピーエンジン／JEEF理事）	
	15:20 チェックイン ※本館は期間中「新館ホール前」に設置しています。 八ヶ岳自然ふれあいセンターは16:00で閉館となります。 ※WS実施者は担当スタッフとの顔合わせと会場確認がありますので、 全体会1終了後は残ってお待ちください。	お部屋は 当日資料を ご確認ください
	16:20 発表準備 ※ポスターセッション発表者は集合してください。	新館ホール
	16:45 ポスターセッション（60分） ※受付でお配りしたファイルにフィードバックシートが入っています。 発表者へのフィードバックをお書きください。 5枚フィードバックを書いた方は事務局まで。プレゼントと交換します！	
	17:45 交流の時間（自由参加） ※自由参加です。 ※全体会のこと、環境教育のこと、テーマごとにおしゃべりしましょう♪	
	18:15 自由時間 ・お風呂OK	
	19:00 夕食	新館レストラン
12月7日（土）	20:00 情報交換会 ・コンシェルジュデスク&リクルートコーナー（ホール内） ・バー・開店♪（ホール内） ・ショップ「ちえの本の実」（ホール内） ・ELMS体験ブース（ホール内） ・20:30安西理事による星空観察会！（アンテナホール） ・21:00ワークショップの参加エントリー最終締切（本部） ・本館は22:00でCLOSELします。	新館ホール
	22:30 1日目終了 ※まだ喋りたい！そんな方は二次会※ハンターホールへ。 ※清泉寮新館の大浴場は23:00まで（23:30クローズ）	本部前
	7:00 早朝ワークショップ（7:00～8:00） I）あり方の学び方を探究する～馬と子どもの現場を手掛かりに II）渡り鳥に出会おう！ III）清里朝さんほ	各ワークショップ会場は 当日資料を ご確認ください
	7:30 朝食（7:30～9:00）	新館レストラン
	9:30 ワークショップ ①あなたの発見おしえてください in 清里 ②生成AIが環境教育のあり方を変える ③絵が苦手でも平気♪観察力と表現力をはぐくむネイチャージャーナリング体験WS ④パッケージ・プログラムを体験しよう！	各ワークショップ会場は 当日資料を ご確認ください

	時間	プログラム	会場
12月7日(土)	11:30	片付け。ランチタイム ※お弁当はWS会場にお配りします。 ※午前中ワークショップに参加されない方は、本部でお弁当をお渡しします。	
	12:10	<オプション企画> 清里満喫ショートトリップ ●牧場見学コース 12:10本館ロータリー集合 ●ヤマネミュージアム見学コース 12:35ハッポ自然ふれあいセンター前集合 ※入館料が別途かかります。 ●のんびりそれぞれの時間(新館ホールは自由に使えます)	
	13:30	ワークショップ ⑤自然体験が地域愛着に及ぼす影響 ～青少年教育施設×学校×大学 三者連携の意義について考えよう～ ⑥ネイティブ・アメリカンの知恵に学ぶ ⑦知っておきたい生物多様性の基礎、基本 ⑧竹の活用を考える～竹クリスマス飾り作り～	各ワークショップ会場は 当日資料を ご確認ください
	15:30	休憩・移動	
	16:00	全体会2: この瞬間を共有したい！～センス・オブ・ワンダーを伝える言葉 <ゲスト> 森原 聖さん(一般社団法人三穂駒舎 共同設立者) 小菅 江美さん(森のこども園でくく 園長) <ファシリテーター> 塚原 俊也さん(くりこま高原自然学校)	新館ホール
	18:00	休憩・移動	
	19:00	夕食	新館レストラン
	20:00	情報交換会	新館ホール
	22:30	2日目終了 ※まだ帰りたい！そんな方は二次会※ハンターホールへ。	
12月8日(日)	7:30	朝食	新館レストラン
	9:00	チェックアウト ※大きな荷物は本館ホールでお預かりします。 ※鍵は開けたままご退出ください。鍵は本部または新館フロントで回収します。	
	9:30	ワークショップ ⑨『行く自然学校』から『やる自然学校』へ～『おうちは自然学校だ！』出版記念WS ⑩海の生きものとプラスチックごみ ⑪自分と未来とつながるワークショップ	
	11:30	片付け・移動	
	12:00	閉会挨拶	新館ホール
	12:30	終了 ※残って交流したい方には、少しですがドリンクとお茶づけをご用意しています。 (帰りのバス・電車移動) 清泉寮発13:40⇒清里駅着13:50⇒清里駅発14:02 ※1本前:清泉寮発12:25⇒清里駅着12:35⇒清里駅発12:54	

- ① 新館ホール
- ② 本館ホール
- ③ ハンターホール
- ④ アンデレホール
- ⑤ ハケ岳自然ふれあいセンターホール
- ⑥ 新館レストラン



スズキ・ホンダ・ヤマハ・SUZUKI・HONDA・YAMAHA・POWER・日産・NISSAN・MIKUNI

全体図



清泉寮
新館

清泉寮
本館

☆ギョーザ・ホット(ソフトクリーム)まで標準！分

開会式

司 会 : 公益社団法人日本環境教育フォーラム (JEEF) 垂水恵美子
主催者挨拶 : 公益社団法人日本環境教育フォーラム (JEEF) 理事長 阿部 治

JEEF 理事長・阿部治より主催者挨拶。オンラインが普及した現代、一同に集まって同じテーマについて考え、意見交換を重ねる場の意義について述べつつ、参加者の皆さんとともに充実した 3 日間を送ることを望むことが伝えられた。



司会より JEEF 理事・監事、スタッフ (JEEF、キープ協会、学生ボランティア)、3 日間のスケジュールを紹介。配布資料や注意事項などを説明した。また、参加者の属性 (年代、地域、初参加者、ワークショップ実施者やポスターセッション発表者等) についても紹介した。

全体会

1日目と2日目に2回ある「全体会」では、全体テーマである『共感されるストーリーのつくりかた』について話題提供を受け、参加者全員で考え、意見交換を行った。

1日目 全体会 1: 自然体験のものさし～変化を測る、伝える～

登壇者：

中野 友博 さん（びわこ成蹊スポーツ大学 副学長・教授）

高山 範理 さん（国立研究開発法人森林機構 森林総合研究所チーム長（森林空間利用推進担当））

ファシリテーター：

菅山 明美さん（JEEF 理事／株式会社ハッピーエンジン 代表取締役）

全体会 1 では、自然体験が育む力や、自然のもたらす癒しの効果に科学的な“眼“でアプローチしている研究者から、参加者の変化をとらえ、自然体験の魅力を語る実例等の話題提供をいただいた。2名のゲストの話を聞きながら、わかりやすいデータや言葉によって、自分たちの活動の効果をより広く発信するヒントを探った。





(中野さん講演概要)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

「自然体験のものさし」は、自然体験の意義を語るために変化を測り、伝えることと捉えている。「自然体験で育む力」や「生きる力」をどうやって測るかよく聞かれるが、量的（数値で表せるもの）と質的（感想文のように個人で異なるもの）がある。キャンプが始まる前は5だったものが終わったら6になった、この上がった「1」が何か、それがものさし。研究ではしっかりと妥当性、信頼性を確認し、数字の取り扱い方や、1上がった意味等も考えなければならないが、評価全体を考えると、実施した体験（プログラム）にどんな学びや効果があったか知ることが1番大切だ。

さて、その評価は誰がするのか。僕の研究で測るのはプログラムと参加者、つまり教育効果の部分。1998年頃より、全国の小学生から高校生2万人を対象に5年おきの調査が行われ、自然体験の経験が多いほど自立性・協調性・積極性・自己肯定感が高いという結果が出ている。（青少年教育振興機構のホームページからデータのダウンロードができる。）2011年は子どもだけではなく成人5,000人にも調査を実施し、子どもの頃の体験が豊富な大人ほど、意欲・関心や規範意識が高い人が多い結果が出ており、自然体験の重要性を示すデータになるだろう。では実際に、自然の中で何が起きているのか。2023年の子どもキャンプで、始まる前、終わったすぐ後、1か月後にそれぞれアンケートを行った。終わったすぐ後はみんな家でお手伝いをする。1週間、2週間するとお手伝いをしなくなるが、そうやって繰り返すことで身についていくことが、データを取るとよくわかる。

最後に、工藤直子さんの「野原はうたう」からたんぼぼの詩を紹介する。おそらく多くの人は、綿毛を振って種を飛ばしたイメージをしたと思う。その想像ができた人は、綿毛を息で吹いたことがある人。やったことのない人は何のことだか分からない。経験があるからこそイメージができるということが、自然体験の良さではないかと考えている。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・



(高山さん講演概要)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

私は主に大人を対象として、森林空間を使ったリラクセスや癒しによる健康効果の研究を行っている。「森林セラピー」とは科学的エビデンスに裏付けられた森林浴のことをさし、2004 年から調査が始まった森林セラピー認定基地は全国に 63 か所あって、科学的データによる証明もされている。たとえば長野県信濃町では、癒し、運動、食、アート、娯楽など、地域の体験も含めて楽しむ「森林療法」のプログラムが森林メディカルトレーナー（ガイド）によって行われている。

森林浴の効果測定では頭にセンサーをつけたり、血圧を測ったり、血液の成分を分析したりと、医学・生理的な指標を持つ。しかし短期的・長期的な効果は指標が異なって、短期的な効果は唾液中に含まれるストレスホルモンや血圧、脈拍、交感神経、長期的な効果は免疫物質や抗がんタンパクセロトニンでそれぞれ測る。その結果によると、2 ヶ月に 1 回、2 泊 3 日程度森林で過ごすことが免疫力を維持するためにいいとされている。心理的な指標は臨床心理学等による妥当性・信頼性の確認された調査票を用いるが、健康の分野に加えてチームビルディングや従業員の満足感を含めることもある。さまざまな研究が行われているが、自然環境へのアクセスにより、所得に関連した健康格差が縮まるという欧米の心理分野の研究には関心が高まった。1 週間に 5～6 時間程度、自然とふれあうと幸福感が高まるという結果だ。「森林浴」という言葉は世界で使われている。コロナ禍を経て緑が持つ健康効果への関心が高まったことで、ある程度エビデンスが揃った。海外では医療関係者が国立公園での体験を処方する制度も始まって、森林での医療、福祉、観光、教育など、社会実装が行われている。

最後に、エビデンスは「確かさ」を証明する手助けとして大事だと個人的に思うが、感動や驚きといった「ファクト」は表現できない。両方とも大事。自分たちのやっていることの正当性を主張するのにエビデンスを活用していただければいいと思っている。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・



ゲスト2名からの話題提供を受け、参加者同士の「ぺちやくちゃタイム」を行った。4～5人ずつ近くの席で集まり、感想や意見交換をすることで、他の視点に気づき、自身の考えが整理された。それぞれが自身の活動や研究と結びつけ、これからの3日間はどう落とし込むかを考えるスタートとなった。

2日目 全体会2：この瞬間を共有したい！～センス・オブ・ワンダーを伝える言葉

登壇者：

小菅 江美 さん（森のこども園てくてく 園長）

黍原 豊 さん（一般社団法人三陸駒舎 共同設立者）

ファシリテーター：

塚原 俊也さん（くりこま高原自然学校 校長）

始めに、環境省環境教育推進室の黒部室長から、ご挨拶ならびに環境教育の最新動向について解説をいただいた。



2日目は早朝・午前・午後のワークショップ後の時間での全体会となった。

自然に触れて子どもたちの心が“ワンダー”（自力や自分の思考の枠を超えた自然の大きな働きを前にした人の心の動き）した瞬間は、私たちの感じている自然体験活動の意義や魅力のひとつ。そんな魅力をたくさんの人に伝えることで、自然から離れて日々を過ごす人たちが自然のなかに足を踏み入れるきっかけをつくりたいと考えながら、うまく伝わっていないと感じる人も多い。人の心を揺さぶる自然の魅力やその意義を写真やことばで発信する2人のゲストから、見る人の心に訴えかけるために考えていることについてお話いただいた。



(小菅さん講演概要)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

2004年に発祥地のデンマークを訪問してから20年、日本でも行政の認定を受けた「森のようちえん（自然体験活動を基軸にした子育て・保育、乳児・幼少期教育などの事業形態）」を目指して活動してきた。「森のようちえん てくてく（現在は森のこども園 てくてく）」も2006年に新潟県上越市で開園した当初は園児がたった一人だったが、2021年に認定こども園になった。活動している森には東屋やツリーハウスもあるが、園のスタッフや保護者、地元の大工の手を借りながら作り上げた。日々の活動では森の散歩、田んぼや畑での農的な暮らしなどもしている。

印象的なエピソードとして、初めての運動会を紹介する。園では発表会や運動会は現在でも決まったものはない。しかしある年、兄が通う小学校の運動会を見た子がやりたいと言い出した。物理的な準備はほとんどせず、スタッフには「勝ち負けだけにならないように、心の準備だけしておいて」と告げた。競技のやり方も大人は主導しない。最初の50メートル走では2～6歳児が一直線に並び、スタートもゴールも全員一緒。得点はどうか子どもたちに尋ねると、「ゴールしたら全員1ポイント!」。その様子を見て、今日は最高の1日になると安心した。後から知り、次は呼んでほしいと言う保護者もいたが、「毎日なにをやるか決めていないので、見たければ毎日園に来てください」と答えている。一方で、田植えなど毎年経験する活動も大切にしている。年少では田んぼに入れなくても、年長で入れるようになった子もいるように、本人も保護者も成長を実感できる機会となるからだ。

物語（ストーリー）とプロセスは異なるものだと思っている。プロセスは誰にでも、どこにでもあり、語って初めて物語になる。当事者である子どもが語れると一番よいが、言葉が未熟でまだ難しいため、横にいる大人がどう語るかが重要となる。出来事だけを話すのではなく、気持ちを込めた語りが、活動の魅力を大きく広げてくれると考えている。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・



(黍原さん講演概要)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

三陸駒舎は釜石市で馬とともに暮らす地域文化の再生を行っており、障害や家庭環境に問題を抱えた子どもたちが、馬との暮らしの中で少しずつ成長していく様子を日々見つめている。ジャパン・アウトドア・リーダーズ・アワードのエントリーシートは、2万字「しかない」という感覚だった。書きながら、こんなことやったな、あんな視点があったなとふりかえりにもなった。

ストーリーは「つくる」のではなく「つむぐ」もの。ストーリーの「タネ」はすでにそこにあり、活動とはタネを発芽させる土壌づくりだ。そして、語り手がその子の持つ背景を理解し、理論や学問を踏まえた視座を持つことで、ストーリーはつむがれる。全体会1でもあったように、例えば心理学、社会学、文化、医療などの理論から具体的な場面を読み解くことで、それらが共通言語となり、スタッフ同士や、保護者に対しても、理論を用いて説明すると理解されやすい。この視座をどう持つか。

『新訳センス・オブ・ワンダー』（レイチェル・カーソン著）では、「自力や自分の思考の枠を超えた自然の大きな働きを前にすると人の心は、おのずと『ワンダー』し始める。」とある。新訳の森田真生さんは、自身に子どもが生まれて、一緒に庭づくりをしながらいろいろなことを知ったというエピソードが書かれている。自分の思考を超えた感覚ということで、私の場合は馬がそういう存在だった。馬と過ごし、日々の世話を繰り返していると、些細な変化にも気づくようになる。馬も人を識別して反応する。自分と相手（馬、自然）との間で起こる“今、ここ”の関係性が「自力や自分の思考の枠を超えた自然の大きな働き」だ。そういうことを言葉でどう伝えるかという点においては、体験を思い出す言葉を選ぶことが大事になる。今、一番課題に感じているのは、現場の効果をどう周辺に広げていくかということ。三陸駒舎では生き生きしていても、帰ると元の生活が待っている。周りの共感や、目線を揃えてもらう必要がある。そのために文章化し、大人の理性に訴えている。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・



ゲスト2名からの話題提供を受け、参加者同士の「ぺちゃくちゃタイム」を行った。4～5人ずつ近くの席で集まり、感想や意見交換をすることで、他の視点に気づき、自身の考えが整理された。共感されるストーリーは、そこにあるものであり、私たちがそれをどう伝えるか、私自身にもたくさんのドキメキ（心動かされる体験）が日々必要であるという話がされた。最後には、塚原さんから全体会2を通した総評として、「感性×エビデンス＝行動」であるというまとめがあった。

ポスターセッション

ポスターセッションは参加者が自身の活動報告、提案、事例紹介等を行う場として設定している。3枚の板状ダンボール（さんかくくん）で三角柱を作り、その側面にそれぞれ発表者がポスター等を貼り、時間内で発表する。今回は 25 名の参加者が発表し、聞き手側の参加者と意見交換が活発にされていた。発表後、使用した「さんかくくん」は黙想館に貼り出しを行った。



ポスターセッション発表者一覧

No.	名前	所属	タイトル
1	柴田 葵	熊本県立大学地球温暖化防止対策推進クラブ	学生による地球温暖化防止活動の実践
2	太田 紫菫 小池 悠羽	CSOラーニング制度 JEEFインターン	JEEFのインターン活動を通して学んだこと ～環境問題を身近に捉える3つの秘訣～
3	宮崎 珠実	学生団体Cet	海の生きものとプラスチックごみ
4	池田 日陽	早稲田大学文化構想学部 社会構築論系高野孝子ゼミ	日本の動物園における環境教育 一札幌市円山動物園でのパーム油の問題に関する実践から一
5	岩村 明郁	国際自然環境アウトドア専門学校	自然ガイドを目指す20歳の私が今考えること
6	石川 陽子	海藻おしば協会	漂着海藻を使った環境教育活動～海藻おしば協会
7	鈴木 律子	ぐらいいん屋	おうち自然学校って？ つながって、深め合って、本作ってみた！
8	鈴木 律子	星つむぎの村(ぐらいいん屋)	障がいがあっても、なくても。オンラインで、野外で 自然とあそぼう！星の寺子屋の取り組み
9	佐藤 和明	環白神エコツーリズム推進協議会	白神で「深め 伝え 育てる」
10	工藤 紘佑	株式会社PLUS ICHI DO	教育から幸育へ 世界を愛でて生きるを耕す、地域の学び場
11	原部 直輝	八郷留学	暮らしと遊びを仕事にするなら八郷留学(茨城県石岡市)
12	今岡 寛和	江府町役場 奥大山振興室	鳥取県江府町における自然環境への取り組み
13	小林 祐輝	静岡県立川根高等学校	探究学習×環境教育～学校を博物館に～
14	東村 ほのか	公益社団法人日本環境教育フォーラム(JEEF)	自然体験の効果測定に挑む ～「次世代ネイチャースクール in 南房総」の事例を通して
15	川嶋 直	川嶋直事務所	「インタープリテーション全体計画」をKPで紹介
16	清水 智子	株式会社みくに出版	読んで、試して、ストーリーを楽しもう！
17	原田 真梨子	ESD活動支援センター	つながる力で社会を変えよう～ESD活動支援センター
18	柴原 みどり	ELMSセンター	ELMSセンター～「科学・数学・環境の探究的な学び」
19	坂川 実基	公益財団法人キープ協会	だれもが自然を感じる体験と機会を創出するために わくわくおやこプログラム@清里
20	岡田 淳	認定NPO法人アースマンシップ	奥多摩の森で過ごす～親と子のわくわくキャンプ
21	黍原 豊	一般社団法人 三陸駒舎	馬からの学びを共有～セラピー、リーダーシップ、ウェルビーイング、インクルーシブ…
22	緒方 光明	株式会社生態計画研究所	3Dプリンターを活用した環境教育の取り組み
23	平島 雄一郎	株式会社サンエー印刷	世界初!!!日本発!!!米ぬか油を使用した環境配慮型印刷インキ 「ライスインキ」
24	林 浩二	千葉県立中央博物館	市民参加で発見を共有する
25	手塚 幸恵	小笠原レオニド株式会社	天気をガイドしよう！

ワークショップ

参加者自身が企画・実施者となる「参加者企画ワークショップ」を計 14 本実施した。実施者でない参加者は自身の興味・目的に合わせて参加プログラムを選択し、各ワークショップで参加者同士の活発な意見交換が行われた。実施されたワークショップと内容紹介は以下の通り。(実施者敬称略)

実施枠	タイトル	実施者	会場
〈12/7〉 早朝 7:00 ～8:00	I あり方の学び方を探究する ～馬と子どもの現場を手掛かりに	黍原 豊	E ハケ岳自然ふれあい センターホール
	II 渡り鳥に出合おう！	安西 英明	D アンデレホール
	III 清里朝さんぽ	キープ協会	本館ロータリー
〈12/7〉 9:30 ～ 11:30	① あなたの発見おしえてください in 清里	林 浩二	E ハケ岳自然ふれあい センターホール
	② 生成AIが環境教育のあり方を変える	西村 仁志	B 本館ホール
	③ 絵が苦手でも平気♪ 観察力と表現力をはぐくむ ネイチャージャーナリング体験WS	鈴木 律子 小林 祐輝	D アンデレホール
	④ パッケージ・プログラムを体験しよう！	佐藤 敬一	C ハンターホール
〈12/7〉 13:30 ～ 15:30	⑤ 自然体験が地域愛着に及ぼす影響 ～青少年教育施設×学校×大学 三者連携の意義について考えよう～	白井 健 徳田 真彦	E ハケ岳自然ふれあい センターホール
	⑥ ネイティブ・アメリカンの知恵に学ぶ	岡田 淳	B 本館ホール
	⑦ 知っておきたい 生物多様性の基礎、基本	安西 英明	D アンデレホール
	⑧ 竹の利活用を考える ～竹クリスマス飾り作り～	齊藤 隼人	C ハンターホール
〈12/8〉 9:30 ～ 11:30	⑨ 「行く自然学校」から「やる自然学校」へ ～「おうち自然学校だ！」 出版記念ワークショップ	黍原 豊 上田 桂 塚原 俊也 鈴木 律子	E ハケ岳自然ふれあい センターホール
	⑩ 海の生きものとプラスチックごみ	宮崎 珠実	B 本館ホール
	⑪ 自分と未来とつなぐワークショップ	菅山 明美	D アンデレホール

12月7日（土）7：00～8：00（早朝ワークショップ）

◆あり方の学び方を探求する～馬と子供の現場を手掛かりに

あり方って、どう学べばいいの？子どもに関わる上で、〈やり方〉Doingの前に〈あり方〉Beingが大切と言われています。毎月延200名の子どもたちが利用する三陸駒舎のホースセラピーの実践を手掛かりに、参加者の皆さんとあり方の学び方を探究します。

実施者：黍原 豊（一般社団法人三陸駒舎）



◆渡り鳥に出合おう！

少し寒いかもしれませんが、冬も元気な野鳥を観察して、元気をもらいましょう。ロシアから飛来した冬鳥にも出会えるはずです。

実施者：安西 英明（公益財団法人日本野鳥の会）



◆清里朝さんぽ

八ヶ岳ブルーの青空の下、朝日に包まれながらキープ協会のレンジャーとお散歩します。清里の自然と朝の澄んだ空気で、ゆっくり朝を過ごしましょう。

実施者：公益財団法人キープ協会 環境教育事業部



12月7日（土）9：30～11：30

◆あなたの発見おしえてください in 清里

清里であなたが「発見」したことを写真1枚と短い説明文で応募いただきます。バーチャルな解説板に仕上げて、参加者による「発見マップ」をオンラインで共有します。ミーティング参加者のみなさんにもご覧いただきます。

【実施者】林 浩二（千葉県立中央博物館）



◆生成AIが環境教育のあり方を変える

生成AI（Generative AI）のめざましい発展と普及は、社会のあらゆる分野に変革をもたらしています。環境教育も例外ではなく、新たな可能性と課題が浮上しています。このワークショップでは、生成AIが自然体験や環境配慮型の暮らしやまちづくり、そして持続可能な社会づくりにどのように貢献できるかを探ります。特に、AIによるデータ解析やシミュレーションが気候変動をはじめとする環境問題の解決にどのように役立つかを議論し、未来の教育や環境行動の新しい形を一緒に考えたいと思います。

【実施者】西村 仁志（広島修道大学）



◆絵が苦手でも平気♪観察力と表現力をはぐくむネイチャージャーナリング体験 WS

絵が苦手とか下手とか思っている、皆の中にちゃあんとある「絵心」。自然のものを観察しながら描くことで、思いもよらない不思議や発見に出会えます。描いたものを誰かと見せっこするのも楽しい♪

実際に野外で描いてシェアする体験の他、ぐらいいん屋流の画材の紹介や WS を実施するときのポイントなどもお伝えします。(雨天時は室内で行います)

【実施者】鈴木 律子 (ぐらいいん屋)



◆パッケージ・プログラムを体験しよう！

アメリカの森林環境教育 Project Learning Tree、野生動物の環境教育 Project WILD、水環境教育 Project WET は子ども達や市民に効果的な環境教育の体験型 (hands-on) プログラムで、テキストは指導案の形式で提供されます。清里の自然の中で是非、アクティビティを体験してみてください。

【実施者】佐藤 敬一 (東京農工大学)



12月7日(土) 13:30~15:30

◆自然体験が地域愛着に及ぼす影響 ～青少年教育施設×学校×大学 三者連携の意義について考えよう～

令和3年度から南房総市立富山中学校と大房岬自然の家が連携し、学校の授業の中で自然体験活動を実施する取り組みが始まりました。そして、令和4年度からは大学と連携した調査研究を実施しています。自然体験活動の事前事後にアンケートに回答してもらい、生徒たちの「地域愛着」や行動意図にどのような影響があるかを検証するという内容です。本プロジェクトを例に、地域における連携の意義や方法について皆さんと一緒に考えたいと思います。

【実施者】白井 健 (合同会社くじらのもり)、徳田 真彦 (大阪体育大学)



◆ネイティブ・アメリカンの知恵に学ぶ

自然を感じるとは、大地とつながるとは、地球の声を聞くとは？古来から大自然の中で生きてきた先住民たちが伝える知恵と技術にはそのエッセンスが詰まっています。各地の自然や先住民の様子を紹介しながら、災害時にも使えるサバイバルの基本的心得、気づきと察知力アップのコツ、野生の目の使い方や歩き方などを実践を交えてご紹介します。大自然の中でも、大都会の中でも通用する地球感覚とは何か。今日の地球を視野に入れながら、私たちが行くべく道を探りましょう。

【実施者】岡田 淳 (認定 NPO 法人アースマンシップ)



◆知っておきたい生物多様性の基礎、基本

そもそも生物とは？命とは？多様性とは？

ネイチャーポジティブの基本「生物多様性って何？」を学ぶ時間です。

野外の生きもの観察と座学から、基礎・基本の知識を共有します。

【実施者】安西 英明 (公益財団法人日本野鳥の会)



◆竹の利活用を考える～竹クリスマス飾り作り～

竹はかつて私たちの生活において、あらゆる場面で利用されてきました。

しかし生活用品の多くは、安く大量生産が可能なプラスチックへと移り変わりました。その結果、整備が行き届かない放置竹林が問題とされています。

今回は竹の利活用の可能性を考えながら、クリスマス飾りを作ります。気軽にご参加ください。

【実施者】 齊藤隼人（ひのはらサステナブル）



12月8日（日）9：30～11：00

◆「行く自然学校」から「やる自然学校」へ～「おうち自然学校だ！」出版記念ワークショップ

遠くの森などに出掛けなくても、家で暮らしながら自然と共に楽しく幸せに生きるアイデア満載。非日常から日常へ。「おうち自然学校」は、生活、仕事、遊び、子育て、教育、地域づくりなど、全てがつながる。

2年以上、全国の仲間と「おうち自然学校」について深掘ってきた智恵を元に、自然体験を日常の僕らの暮らしに取り戻そう！

【実施者】 黍原 豊（一般社団法人三陸駒舎）、上田 桂（Donan 自然学校）、塚原 俊也（くりこま高原自然学校）、鈴木 律子（ぐらいいん屋）



◆海の生きものとプラスチックごみ

学生団体 Cet では、環境問題を取り上げてアクティビティをイチから自作し企画する「まちのおはなし広場」や、小学校へ出張授業、その他イベントやお祭りでワークショップを行っています。メンバーはすべて東京農工大学の学生です。農工大生が大学で学んだことを活かす場をつくと同時に、地域の人たちに自然のおもしろさを体験してもらうことで、お互いが Win-Win になるような活動を目指しています。



今回は、2024年3月・7月に行った自主ワークショップ「海の生きものとプラスチックごみ」を実演します。

【実施者】 宮崎 珠実（学生団体 Cet）

◆自分と未来とつなぐワークショップ

ミーティングに参加されている方はみなさん、環境教育、地球環境、SDGs など様々な活動をされていると思います。私もそうなのですが、最近しみじみ思うのです。私は、未来と自分をちゃんとつなげることができているのだろうか。今の私、今の私の活動が未来にどうつながっているのか、未来に繋がるように行動してるのか。同じような思いを抱いておられる方がいらっしゃったら、一緒に考えてみませんか。考えていく手法をご用意します。ご興味あればぜひご参加ください。

【実施者】 菅山 明美（株式会社ハッピーエンジン）



閉会式

最後は新館ホールで加藤事務局長から閉会の挨拶を行い、清里ミーティング 2024 は終了した。閉会後もレストランで最後の時間を惜しむ参加者の様子がみられた。参加された皆様がそれぞれ得たものを持ち帰り、新しい発展に今後つながっていくことを期待したい。

清里ミーティングはこれからも継続して、環境教育等に関心のある方たちにとって有益な学びの場・交流の場をつくっていく。



その他の企画

参加者同士の交流を促すために、下記を行った。

◆参加者専用ページの開設

清里ミーティングのウェブサイト内に、参加者のみが閲覧できる専用ページを開設した。ページには参加者リスト（プロフィール集）、参加の事前資料、ワークショップや送迎バスの参加エントリーフォームなどを掲載した。

また、プロフィールは会期中・終了後も順次更新し、開催後には全体会ゲストの登壇資料もアップロードした。

プロフィール集はオンラインプロフィールページ「Proff」のサービスを使い、参加者が各自で情報を登録。URL を事務局にお知らせ頂き、参加者の間でのみ「一覧」を閲覧できるかたちで配信した。

Proff ページサンプル



◆さきどり交流会

主に初参加で不安を抱える方のために、開始前に参加者同士が交流する時間を設ける「さきどり交流会」を復活した。参加者同士の緊張がほぐれ、楽しそうな様子が見られた。



◆オプションツアー企画

2日目午前と午後のワークショップの間の昼食は少し長めにとった。ワークショップのふりかえりをゆっくりする人。お土産を見に、あるいは名物のソフトクリームを食べに行く人。前日の夜遅くまで交流していたので少し休憩している人。参加者は各々、好きに時間を使っていた。

そして初参加の方のために、この時間でキープ協会によるオプションツアーとして、「牧場見学コース」と「ヤマネミュージアム見学コース」の2本を実施した。



◆インフォメーションコーナー

新館ホール内にチラシ置き場を設置し、事務局や参加者が持ち寄ったチラシや資料を自由に配布した。

◆協賛団体ブース

清里ミーティングへご協賛いただいた企業・団体様の紹介ブースを本館ホール内に設置した。協賛団体は開会式で紹介。ブースには会期中、空き時間などを利用して参加者が資料を閲覧する様子が見られた。



◆情報交換会

1日目、2日目ともに夕食の後は新館ホールで情報交換会を開催した。参加者からの差し入れや、キープ協会がバーを開店し、飲み物を販売。参加者は思い思いに交流した。人を紹介する「コンシェルジュデスク」や「リクルートコーナー」、日能研のショップ「ちえの木の实」を出店。参加者はプログラムに使える絵本などを興味深げに見ていた。途中、安西英明氏（JEEF 理事）による星空観察会も実施した。

情報交換会終了後。二次会はハンターホールに会場を移し、夜遅くまで熱い議論と交流が活発に行われた。



清里ミーティングこれまでの実績

第1回清里フォーラム

- 日時：1987年9月28日(月)～29日(火)
■参加人数：93人
■主催：清里フォーラム実行委員会
【分科会】①環境教育について（考え方とその論理）
②自然観察の中に今後とりこんでいきたいもの
③指導者とボランティアの養成を今後どうするか
④施設運営とコーディネーターの在り方について
⑤自然観察の有料化について
⑥清里フォーラムの将来性・方向性について
■ゲスト：加藤幸子（小池しげんの子）

第2回清里環境教育フォーラム

- 日時：1988年11月13日(日)～15日(火)
■参加人数：151人
■主催：清里環境教育フォーラム実行委員会／(財)日本環境協会
■後援：環境庁／山梨県
【分科会】
前半 ①学校と環境教育 後半 ①地域・開発と環境教育
②地域社会と環境教育 ②施設と環境教育
③施設と環境教育 ③人づくりと環境教育
④自然観察と環境教育 ④市民・行政・企業・学校の協力
⑤企業と環境教育 ⑤環境教育の目的と方法
⑥学校と環境教育
⑦企業と環境教育
■ゲスト：ロバート・ピナウィーズ（元ヨセミテ国立公園管理事務所長）

第3回清里環境教育フォーラム

- 日時：1989年11月12日(日)～14日(火)
■参加人数：168人
■主催：清里環境教育フォーラム実行委員会／(財)日本環境協会
■後援：環境庁／文部省／山梨県
【分科会】①小中高における環境教育カリキュラム
②若い世代に楽しいプログラムとは
③環境教育をうまく経営していくためには
④環境教育の場でボランティアが活躍できるためには
⑤環境教育で村おこしができるか
⑥大学における環境教育
■ゲスト：ジェームス・サノ（元マリーナ・ディスカバリーズ専務理事）

第4回清里環境教育フォーラム

- 日時：1990年11月18日(日)～20日(火)
■参加人数：163人
■主催：清里環境教育フォーラム実行委員会／(財)日本環境協会
■後援：環境庁／文部省／山梨県
【分科会】①学校教育 ②事業化
③プログラム ④人づくり
⑤施設 ⑥地域開発・村おこし
※この年4月より上記6つの研究部会が発足。
■ゲスト：ジョセフ・コーネル（ネイチャーゲーム考案者）

第5回清里環境教育フォーラム

- 日時：1991年11月17日(日)～19日(火)
■参加人数：187人
■主催：清里環境教育フォーラム実行委員会
■後援：環境庁／文部省／山梨県
【分科会】①学校 ②事業化 ③プログラム
④人づくり ⑤施設 ⑥地域社会
■ゲスト：スティーブン・メドレー（ヨセミテ・アソシエーション会長）
※1992年9月 任意団体 日本環境教育フォーラム発足
※1992年7月 「日本型環境教育の提案」発刊

日本環境教育フォーラム 清里ミーティング '92(通算6回)

- 日時：1992年9月19日(土)～21日(月)
■参加人数：132人
■主催：日本環境教育フォーラム設立準備会
■後援：環境庁／文部省／山梨県
【紹介WS】①エコツアー報告・ヨセミテ自然学校
②New School of Conservationにおける環境教育
③ペンギンリザーブ活動報告
④国際理解教育・資料情報センター活動紹介
⑤フィールドミュージアムごっこ
⑥環境教育国際セミナーに参加して
⑦成城学園における「散歩」「遊び」
【体験WS】①さあ、みんなでやってみよう！開発教育シミュレーション
②エコロジーキャンプつまみぐいハイク
③ネイチャーゲーム入門
④もしフィールドでけがをしたら
⑤PLTプログラムの紹介
【分科会】①学校での環境教育
②地域に根ざした環境教育
③エコツーリズムの可能性とその問題点
④環境教育のプログラム教材開発
⑤指導者養成について
⑥エコマネジメントのしかた

日本環境教育フォーラム 清里ミーティング '93(通算7回)

- 日時：1993年11月14日(日)～16日(火)
■参加人数：154人
■主催：日本環境教育フォーラム
■後援：環境庁／文部省／山梨県
【体験PRG】①ネイチャーゲーム ②死の準備教育の試み
③マインドクロッキー④パートナーシップへの挑戦
⑤究極の自然観察会 ⑥たずね鳥をさがせ
【分科会】①プログラム ②施設 ③学校
④人づくり ⑤企業 ⑥地域・自治体
⑦エコツーリズム ⑧海外の国立公園情報
■ゲスト：アン・ロベッタ（ストーリーテラー）

日本環境教育フォーラム 清里ミーティング '94(通算8回)

- 日時：1994年11月27日(日)～29日(火)
■参加人数：167人
■主催：日本環境教育フォーラム
■後援：環境庁／文部省／山梨県
【体験PRG】①ネイチャーゲーム ②ファイブ・トリック
③森の宝箱をつくろう ④地球救出作戦
⑤枯れ木に花を咲かせましょう ⑥清里・冬物語
【分科会】①企業 ②エコツーリズム ③都市環境教育 ④ネイチャー
トレイル ⑤自然学校
⑥ネイチャーライティング ⑦フォーラム塾
■ゲスト：ジョン・エルダー（ミドルベリー大学英語学・環境学教授）

日本環境教育フォーラム 清里ミーティング '95(通算9回)

- 日時：1995年11月25日(土)～27日(月)
■参加人数：185人
■主催：日本環境教育フォーラム
■後援：環境庁／文部省／山梨県
【分科会】①自然学校としての施設づくり②行政・自然学校
③自然学校の経営を考える ④自然学校の人材育成
⑤自然学校のプログラム
【WS】①写真で環境教育 ②あなたにとって出会いとは何ですか
③環境教育を企画・プロデュースする
④ソフトクリーム姉ちゃんをねええ！
⑤未知なる可能性を求めて
⑥キープ・フォレスト・スクールのプログラム体験
⑦ネイチャーゲーム、アジアと環境教育
⑧独特な日本人に有効な環境教育戦略は？
⑨アース・アート ⑩メディアワークショップ

日本環境教育フォーラム 清里ミーティング '96(通算10回)

- 日時：1996年11月16日(土)～18日(月)
■参加人数：174人
■主催：日本環境教育フォーラム
■後援：環境庁／文部省／山梨県
【分科会】①自然学校の「事業化」
②自然学校でのプログラム
③地域振興と環境教育
④環境保全活動がそのまま環境教育
⑤エコツーリズムの様々な可能性
⑥JEEFの法人化など今後の可能性
【ワークショップ】
①ネイチャーゲーム入門講座
②ネイチャーエクスポアリング
③清里での川の環境教育を考える
④「子供であそぼう」についての御紹介
⑤元気がでる自然観察
⑥環境教育の本質を考える
⑦環境教育を企画・プロデュースする
⑧清里で「海の環境教育」を考えよう
⑨自然をテーマにしたスライドショー
⑩自分への気づきとNGO
⑪清里インターネット通信社へようこそ
⑫森だくさんの自然体験
⑬まちを遊ぼう
⑭未知なる可能性を求めて
⑮エコビレッジを作ろう
⑯アクティビティの「バクリとアレンジやローカライズ」

※1997年4月
環境庁主管の法人格を取得、社団法人日本環境教育フォーラム設立

(社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング '97(通算11回)

- 日時：1997年11月15日(土)～17日(月)
■参加人数：170人
■主催：社団法人日本環境教育フォーラム
■主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
■協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
■後援：環境庁／文部省／山梨県
【分科会】①環境教育の指導者養成
②環境教育の新しいプログラム開発
③環境教育とまちづくり
④環境教育の情報の発掘と提供
⑤企業や行政とどのように組み合わせる？
⑥新しい交流集会のスタイル
【WS】①ネイチャーゲーム入門講座
②自然と心・心とひとのコミュニケーション
③環境教育の服装計画を考える
④出たところ勝負の自然観察会＋人間ウォッチング
⑤環境教育を企画プロデュースする
⑥環境教育と経営と税金

- ⑦インタープリティブサインをつくろう
- ⑧ディープエコロジー・ミニワークショップ
- ⑨フィリピン流！演劇ワークショップのすすめ
- ⑩安全管理チェックリストをつくってみよう
- ⑪ネイチャーエクスポアリングコースづくり
- ⑫水辺でさがすいろいろなつながり
- ⑬アクティビティと小道具
- ⑭キープの自然体験プログラム
- ⑮博物館をつくろう！
- ⑯野外における企業研修の実践とその可能性

【(社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング '98(通算 12 回)】

- 日時：1998 年 11 月 14 日(土)～16 日(月)
- 参加人数：176 人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境庁／文部省／林野庁／山梨県
- 【分科会】
 - ①公共事業における環境教育の役割
 - ②森林・里山における環境教育と地域振興
 - ③アメリカの環境教育プログラムの日本への導入
 - ④動物と関わる環境教育
 - ⑤日本型エコツーリズムについて
 - ⑥メディアと環境、その先にあるもの
- 【ワークショップ】
 - ①環境教育個人商店を考える
 - ②私のきもち、みんなのきもち、地球のきもち
 - ③21 世紀のインタープリテーションを求めて
 - ④おきらく やまなばの部屋
 - ⑤プロジェクトワイルド「水生生物」に学ぶ
 - ⑥エコマナーのすすめ
 - ⑦もし参加者が野外でケガをしたら
 - ⑧ネイチャーエクスポアリング
 - ⑨エコスピリチュアルワークの試み
 - ⑩アクティビティ大賞実施編・体験編
 - ⑪これまでの 50 年とこれからの 50 年
 - ⑫川を設計してみよう
 - ⑬「おもい」を「かたち」にはじめの一步
 - ⑭自然学校でめしが喰えるか

【(社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング '99(通算 13 回)】

- テーマ：「学ぶ心・育つ力」
- 日時：1999 年 11 月 13 日(土)～15 日(月)
- 参加人数：185 人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境庁／文部省／林野庁／山梨県
- 【分科会】
 - ①自然学校の運営を考える
 - ②「総合的な学習の時間」で学校と地域をつなぐ
 - ③都市型の生活環境をテーマにした遊び場づくり
 - ④森から見つめる川と海
 - ⑤エコツーリズム一歩前へ
 - ⑥見つけよう地域の里山、伝えよう里山の魅力
 - ⑦チルデンを越えろ！
 - ⑧教育を考える
- 【早朝 WS】
 - ①カラスのきもち
 - ②朝のディーツタイム
 - ③きもちとキモチをつないだら
 - ④五感で感じよう清里の自然
 - ⑤オカリナ・ハナリナ体験教室

【(社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2000(通算 14 回)】

- テーマ：「原点を見つめよう」
- 日時：2000 年 11 月 11 日(土)～20 日(月)
- 参加人数：171 人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境庁／文部省／林野庁／山梨県
- 【体験 PRG】
 - ①野外での救急法を覚えよう
 - ②ネイチャーウォッチング in 清里
 - ③清里の晩秋を味わうキープ流自然体験
 - ④心と体で感じよう！ネイチャーゲームが案内する清里の自然
 - ⑤竹を使ったものづくり
 - ⑥羊の毛から糸つむぎ教室
 - ⑦自分という自然に出会う
 - ⑧Frog (カエル)
 - ⑨プロジェクト・アドベンチャー
- 【分科会】
 - ①自然体験活動における体験学習法
 - ②ゆったり楽しむ ノスタルジーワーク
 - ③虫を知る・入門
 - ④「センス・オブ・ワンダー」って何だ？
 - ⑤学校ピオトープの可能性
 - ⑥五感を使って楽しみながら自然探検
 - ⑦環境教育とスピリチュアリティ
 - ⑧企業・行政マン向け環境教育テキスト作り
 - ⑨自然学校の PR 活動を考える
 - ⑩Out of Treasure Boxes
 - ⑪民話・ことわざから考える日本人と川の関係
 - ⑫エコツーリズムのビジネスネットワークを考える
 - ⑬表現を楽しもう！「シアターゲーム」
- 【早朝 WS】
 - ①野遊び手遊び発見隊
 - ②センス・オブ・ワンダーの体験
 - ③地球と私の合作づくり “1 枚の葉”

- ④見て、聴いて、感じて・・・朝の森でネイチャーゲーム
- ⑤早朝ジョギングワークショップ
- ⑥キモチときもちをつないだら
- スライドプレゼンテーション
- JEEF 理事による 3 分トーク

【(社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2001(通算 15 回)】

- 日時：2001 年 11 月 17 日(土)～19 日(月)
- 参加人数：192 人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部科学省／農林水産省／林野庁／山梨県
- 【体験 PRG】
 - ①清里の晩秋を味わうキープ流自然体験
 - ②初心者歓迎！清里の自然をネイチャーゲームで楽しもう
 - ③秋の味覚を楽しもう！
 - ④「ほっ♪」となるたき火講座
 - ⑤身体感覚講座
 - ⑥The Bear (ひぐまの生き方、暮らし方)
 - ⑦プロジェクト・アドベンチャー
 - ⑧やまねミュージアムへ行くこ
- 【分科会】
 - ①総合的な学習の教材として「拾ったもの(生きもの)に関連するもの」を活用する
 - ②「いまだき」の子ども・「いまだき」の親 改造計画！
 - ③博覧会を環境教育という視点から評価する
 - ④ゆったり過ごすやまなば流ネイチャーワーク
 - ⑤ワークショップという新しい学び方をめぐって
 - ⑥朝からイキナリ！若者で語ろう！の会
 - ⑦小さな子どものための環境教育の“技”をさぐる
 - ⑧地域の昔話を中心にした環境教育
 - ⑨農業と林業を語ろう！農業者と林業者と語る環境教育
 - ⑩Environmental Education in English
 - ⑪北九州博、きらら博で行われた環境教育プログラムはこれだ！
 - ⑫テロ・戦争に関してわかちあう
 - ⑬環境教育基礎講座
 - ⑭GEMS の体験プログラム
 - ⑮自然学校で働くこと
 - ⑯センス・オブ・ワンダー
 - ⑰ネイチャーエクスポアリングライトの体験と総合的な学習の時間に活かせる活動事例
 - ⑱田んぼから生まれる日本型環境教育
- 【早朝 WS】
 - ①センス・オブ・ワンダーを楽しむ
 - ②早朝ジョギングワークショップ
 - スライドプレゼンテーション
 - 参加者による 3 分トーク「ここが変だよ！環境教育」

【(社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2002(通算 16 回)】

- テーマ：「胎動」
- 日時：2002 年 11 月 16 日(土)～18 日(月)
- 参加人数：182 人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部科学省／国土交通省／林野庁／山梨県
- 環境教育ミニレクチャー
- ヨハネスブルグ・サミット報告
- 参加者による 3 分トーク「環境教育 次のキーワードはこれ!!」
- 【ワークショップ】
 - ①地域通貨ってなんだろう？
 - ②折り紙を使った環境教育の試み(3)
 - ③幼稚園、保育園に環境教育を導入しよう
 - ④環境問題、エコロジカルアートからの試み
 - ⑤環境教育指導者と研究者、カリキュラム開発者のつながりを作ろう
 - ⑥体験主義を超えて・・・プロジェクト・ワイルドの世界
 - ⑦「自然の中で働く男性はオパバチャン度が高い??」を証明したい!!
 - ⑧未来へ、世界へ、感動をどうつなぐのか
 - ⑨ひよこのキモチ
 - ⑩モアイは何を見たか
 - ⑪Environmental Education in English
 - ⑫持続可能な開発と環境教育
 - ⑬森の交響サイン計画づくり
 - ⑭サロンの語り場
- 【早朝 WS】
 - ①早朝ジョギングワークショップ
 - ②清里ミニガイドツアーA
 - ③清里ミニガイドツアーB
 - ④モンゴル茶で朝を迎えよう
 - ⑤清里ミニガイドツアーC
- スライドプレゼンテーション

【(社)日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2003(通算 17 回)】

- キーワード：持続可能な開発のための教育
- 日時：2003 年 11 月 15 日(土)～17 日(月)
- 参加人数：208 人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部科学省／国土交通省／林野庁／山梨県
- 【全体会】
 - ・科学と環境教育をつなぐミーティング（前夜祭）の報告
 - ・環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律
 - ・持続可能な開発のための教育（ESD）
 - ・スライド&トーク ーオローニの日々ー

～持続可能な社会づくりに自然科学知を活かすために

- 【早朝 WS】 ①早朝ジョギングワークショップ
②座禅&ヨガ
③清里ミニガイドツアー

■スライドプレゼンテーション・5分で伝えるメッセージスライド
■JEEF 活動報告

【社】日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2006(通算 20 回)

■日時：2006 年 11 月 18 日(土)～20 日(月)
■参加人数：224 人
■主催：社団法人日本環境教育フォーラム
■主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
■協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
■後援：環境省／文部科学省／国土交通省／経済産業省／林野庁／山梨県／日本環境教育学会

■全体会「日本の環境教育 この 20 年を振り返る」基調講演
■学長鼎談「大学と環境教育」

【WS&体験 PRG】

- ①自然学校を事業化する
～20 年間に自然学校は何を獲得したのか～
②団体・組織におけるリスクマネジメントを考える
③あなたにとって食育ってなに？
④環境教育基礎講座
⑤新型の起業研修を応用したスタッフ研修ゲーム
⑥学びとコミュニケーション
～GEMS プログラムの体験を通して～
⑦ESD の実践のポイントを探索
～みんなで話せばわかってくる!?～
⑧森林環境教育のすすめ ～木が好きになるプログラム～
⑨50 分プレゼンテーション(午前の部)
⑩企業と NPO との協働を考える戦略会議
⑪環境教育と ESD(持続可能な開発のための教育)の関係性を探索
⑫環境教育と地域づくり
⑬環境教育仕事塾
⑭行政との連携を考える
⑮太鼓で太古に退行するぞ！
⑯木から樹を知る方法 ～木材を IP にいかす～
⑰セルフガイドで使えるしかけ展示のモデルをつくろう
⑱50 分プレゼンテーション(午後の部)
⑲自然への感動を生み出し、ライフスタイルの転換を促す
科学的知識の伝え方
⑳感性？科学？どっちのインタープリテーションショー

【早朝 WS】 ①早朝ジョギングワークショップ
②環境質問 ～答えのない問題～
③ロシアからやってきた冬鳥を探してみませんか
④清里ミニガイドツアー
⑤清泉寮 朝さんぽ

■環境ショート映像作品上映会

■今後の戦略会議

■スライドプレゼンテーション

【社】日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2007(通算 21 回)

■日時：2007 年 11 月 17 日(土)～19 日(月)
■参加人数：230 人
■主催：社団法人日本環境教育フォーラム
■主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
■協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
■後援：環境省／文部科学省／国土交通省／経済産業省／林野庁／山梨県／日本環境教育学会
■省庁プレゼンテーション
■全体会：「生物多様性」基調講演
・第 3 次生物多様性国家戦略が目指すもの
・企業が取り組む生物多様性保全

【ワークショップ】

- ①「生物多様性」の見つけ方・伝え方
～自然体験活動を、生物多様性保護の教育活動に結びつける実際の方法～
②行政との協働を考える
③学ぶ環境としてのコミュニケーション ～GEMS とボードンメソッド～
④食育コミュニティをつくろう！
⑤どこでもインタープリテーション！ ～グッズ展開型 IP～
⑥関西発！これからは日本的でいい！
⑦新型の企業研修を応用したスタッフ研修ゲーム
スピード・ソリューション～自然学校版～
⑧企業、NPO、学校の連携による環境教育を考える
⑨ツリークライミング？ 樹上の世界から学ぶこと
⑩50 分プレゼンテーション
⑪企業と環境 NPO との協働を進める戦略会議
⑫ESD を広める人のための「ESD 入門講座」
⑬環境教育基礎講座
⑭生物多様性と環境教育について
⑮科学と環境教育 自然体験からライフスタイルの転換へ
～ヤマネのプログラム体験を通じて～
⑯メディアと自然学校
⑰環境経営戦略ゲーム体験会
⑱体験型展示物を評価しよう
⑲エコツーリスト予備軍を探せ・つかめ・そして楽しめ！
⑳障害者と共に楽しみ・学ぶ森林環境教育
㉑やってみよう!! 体感ツリークライミング㉑の世界

【早朝 WS】 ①早朝ジョギングワークショップ
②センス・オブ・ワンダーを楽しむ散歩
③清里ミニガイドツアー

■今が旬の活動事例紹介

■スライドプレゼンテーション

■今後の戦略会議

■JEEF(日本環境教育フォーラム)の集い

■JEEF 理事の何でも相談所

【WS&体験 PRG】

- ①ワラっていいとも
②社会教育ゲーム体験プログラム 投資意志決定ゲーム Chemical
③参加型オンラインデータベースを使った「つながる」体験活動の試み/AM
④総合学習への NPO 参画が期待されているけど、実現が難しいのは何故？
⑤エコ・ネイショニングゲーム
⑥忙しい!!! けど前向きに レベルアップシートを作ろう
⑦科学するココロを育てよう！
⑧参加型オンラインデータベースを使った「つながる」体験活動の試み/PM
⑨野生生物教育の現状と課題
⑩フォーラム企業部会をリセットして、今後の方向性を考えよう！
⑪「持続可能な人」づくり
⑫開府 400 年！ 江戸町民の循環型社会から学ぶごみ減量大作戦
⑬どうなる？どうする？ 日本環境教育フォーラムの未来
⑭子育てという環境
⑮地方発！食農発信！
⑯環境教育の中の行政の役割を考えよう！

【早朝 WS】

- ①センス・オブ・ワンダー
②清里ミニガイドツアー 富士山とせせらぎの小径コース
③清里ミニガイドツアー めしの木コース
■スライドプレゼンテーション

【社】日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2004(通算 18 回)

■キーワード：「持続可能な開発のための教育の 10 年」夜明け前
■日時：2004 年 11 月 13 日(土)～15 日(月)
■参加人数：187 人
■主催：社団法人日本環境教育フォーラム
■主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
■協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
■後援：環境省／文部科学省／国土交通省／林野庁／山梨県
・全体会
・「持続可能な開発のための教育の 10 年」夜明け前
・「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」を考える

【WS&体験 PRG】

- ①エコツーリズムという生き方
②科学と環境教育
③地場産小麦でパンをつくろう！
④環境立国 エコ・ネイショニングゲーム
⑤「センス・オブ・ワンダーからグリーンコンシューマーへ」
～第 1 回清里「エコ商品コンテスト」～
⑥持続可能な地域づくりにつながるネイチャーゲーム体験
⑦体験学習への扉をひらく(午前の部)
⑧自然学校の動きと人材養成
⑨環境教育 in 国際協力 最前線！
⑩環境教育基礎講座「環境教育と自然体験」
⑪酵母を育てて、パンを作ろう！
～酵母が教えてくれる、命、自然とのつながり～
⑫石器時代に接近！モノはこうして作る ～シエラカップ～
⑬いのちを伝える自然体験
～自分流健康な生きかたを学ぶ～
⑭ボードゲーム型の環境教育プログラム
⑮体験学習への扉をひらく(午後の部)
⑯「1 億円のプロデュース」

【特別ワークショップ】

バーム油のはなし ～開発教育入門講座～

【早朝 WS】

- ①早朝ジョギングワークショップ
②センス・オブ・ワンダーって、こんなに楽しく気持ちいい
③清里ミニガイドツアー めしの木コース
■スライドプレゼンテーション・5分で伝えるメッセージスライド
■JEEF 公開理事対談

【社】日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2005(通算 19 回)

■キーワード：「自然を舞台にした環境教育は、持続可能な社会づくりに具体的にどのように役に立ってきたのか」
■日時：2005 年 11 月 19 日(土)～21 日(月)
■参加人数：221 人
■主催：社団法人日本環境教育フォーラム
■主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
■協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
■後援：環境省／文部科学省／国土交通省／経済産業省／林野庁／山梨県／日本環境教育学会
■全体会：基調講演、5 分間スピーチ、パネルディスカッション
【WS&体験 PRG】
①環境教育基礎講座(午前の部)
②自然学校って何だ？
③学校教育と環境教育
④ボードゲーム型の環境教育プログラム
⑤ひとりひとりの感性で自然を感じよう
～ネイチャーゲームでのんびりぶらぶら～
⑥セルフガイドシートを使用した、短時間、多人数対象プログラムの検証 ～セルフガイドシートの評価軸を作ろう～
⑦科学ってなんだろうと考えながら皆で遊ぼう！
～低学年向けの GEMS プログラムを通して～
⑧森林療法
⑨プロジェクト WET 体験会(午前の部)
⑩環境教育基礎講座(午後の部)
⑪自然学校の評価に向けた人材養成
⑫小さな町村での自然学校の役割と可能性を探索
⑬CSR と環境教育
⑭おいしく食べ続けていける社会づくりは……
⑮里山で音楽会
⑯樹木年輪から樹の声を聴く方法！ ～過去からの環境の変化を辿る～
⑰プロジェクト WET 体験会(午後の部)
⑱科学と環境教育 見直そう！あなたのインタープリテーション

【(社)日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2008(通算 22 回)】

- 日時：2008 年 11 月 15 日(土)～17 日(月)
- 参加人数：192 人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部科学省／国土交通省／経済産業省／林野庁／山梨県／日本環境教育学会
- 全体会：「日本型環境教育の知恵 出版記念」～日本型環境教育とは～

【ワークショップ】

- ①科学と環境教育 ヤマネに学ぶエコロジカルな暮らし方
- ②生き物との共生について ～どんな共生があるのか～
- ③環境教育&ESD を「広げる×深める」政策を考えよう
- ④お互いの関係を作るコミュニケーションスキル
- ⑤社会人大学院生&興味ある人集まれ！
- ⑥エコとエネをつなぐ環境教育を考える
- ⑦森林環境教育と Project Learning Tree
- ⑧環境教育を評価する「環境教育を棚卸しましょう」
- ⑨企業・NPO・学校の連携による環境教育を考える
- ⑩企業のための環境 NPO カタログ編集会議
- ⑪どうする!《限界集落》またの名は《上流社会》
- ⑫科学と環境教育総編集 科学と環境教育の関わりを定義する
- ⑬オオバコさもうで勝つ方法！理学系研究室の自然体験
- ⑭川遊びのルールを広めよう
- ⑮日本型、日本的を考える ～日本の自然観という視点～
 - ⑯地球環境カードゲーム マイアースを遊び尽くす
 - ⑰障害者と共につむぐ環境教育の企画をつくる！
 - ⑱森づくりのための戦略会議 ～行政・企業・NPO の協働～

【早朝 WS】

- ①砂鉄から鉄を作ろう！ 柏崎の製鉄遺跡と自然のかかわり
- ②映画「西の魔女が死んだ」 おばあちゃんのお家ツアー
- ③清里の森で宝物発見
- ④ロシアから渡ってきた鳥と出会いましょう
- ⑤清里ミニガイドツアー

■環境教育プレゼンテーション

■今後の戦略会議

■JEEF(日本環境教育フォーラム)の集い

■JEEF 理事の何でも相談所

【(社)日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2009(通算 23 回)】

- テーマ：「生物多様性」～環境教育の役割～
- 日時：2009 年 11 月 14 日(土)～16 日(月)
- 参加人数：193 人
- 主催：社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部科学省／国土交通省／経済産業省／林野庁／山梨県／日本環境教育学会
- 全体会
 - ・基調講演「生物多様性」とは何か？ 行政・企業・NGO から
 - ・事例紹介「生物多様性 私はどう伝える」
 - ・全体ディスカッション

【ワークショップ】

- ①自然体験型環境教育基礎講座
- ②多様な生物の声を聴く～全生命の集いワークショップ～
- ③科学的な視点を活かした環境教育のプログラム作り
- ④企業、NPO、学校の連携による環境教育を考える
- ⑤社会人大学院生&興味ある人集まれ！Part2
- ⑥風が吹けば桶屋が儲かる 生物多様性ゲームトライアル
- ⑧バーマカルチャーと環境教育
- ⑨幼児～小2 に伝える生物多様性の形を探る～
- ⑩ビジターセンターを運営側から考える方法
- ⑪あなたにとって、生物多様性って何？
- ⑫生物多様性に焦点を当てたプロジェクト・ワイルド体験
- ⑬人間界に多様性は確保されているか
- ⑭日本の森林環境教育と Project Learning Tree
- ⑮どうプログラム化しよう？自然学校の「エネルギー」
- ⑯風が吹けば桶屋が儲かる 生物多様性ゲームトライアル
- ⑰日本的、アジアの自然観を整理し、環境教育に活かす
- ⑱エコとエネをつなぐ環境教育を考える Part2
- ⑲事故防止～注意を促すだけでいいの？実践的予防安全法
- ⑳トランジションタウンとは何か？都留での試み

(注) ⑦川遊びを始めよう！～川の安全管理トレーニング～ は、都合により中止

【早朝 WS】

- ①生物多様性を映像で感じよう ～いっしょに生きる道～
- ②映画「西の魔女が死んだ」 おばあちゃんのお家ツアー
- ③ゼロからの火おこし術

■環境教育プレゼンテーション

■当日募集ワークショップ

■JEEF(日本環境教育フォーラム)の集い

■JEEF 理事の何でも相談所

※2010 年 6 月 公益社団法人への移行認定を取得、公益社団法人日本環境教育フォーラムへ。

【(社)日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2010(通算 24 回)】

- テーマ：「いのちをつなぐ環境教育」
- 日時：2010 年 11 月 13 日(土)～15 日(月)
- 参加人数：177 人
- 主催：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部科学省／国土交通省／経済産業省／林野庁

／山梨県／日本環境教育学会

■全体会

- ・基調講演「生物多様性条約第 10 回締約国会議の結果」
- ・提案「生物多様性保全に果たす ESD の取組について」
- ・提案「What is CEPA?」
- ・取組紹介「環境省における ESD の取組について」
- ・全体ディスカッション

【ワークショップ】

- ①自然体験型環境教育基礎講座 ※
- ②日本の自然観から考える環境教育
- ③農耕暮らしの学校
- ④自然感を耕す：人は心を、畑は土を、森はデザイン感を
- ⑤生物多様性まんだらカードゲーム体験会
- ⑥生物多様性条約の CEPA って何だ？
- ⑦企業、NPO、学校の連携による環境教育を考える
- ⑧エコとエネをつなぐ環境教育を考える Part3
- ⑨「サステナビリティ」の基本はこれだ！ ※
- ⑩これだけは知っておきたい！生物多様性の基礎知識 ※
- ⑪生物多様性を普及する環境教育を目指して
- ⑫森を考える～木質バイオマスで 100 年先の森づくり～
- ⑬大学生のための食育プログラム
- ⑭命をいただく～ニトリと生きる～
- ⑮エコロジカル・シンキングゲーム
- ⑯「地球交響曲第 7 番」を見て、みんなで語ろう！
- ⑰イナカとこどもと日本の未来を考える
- ⑱企業の行なう自然体験活動と地域のつながりを考える

※の印は、主催者企画ワークショップ

(注) ⑨海外での環境教育(保全)活動を日本でどう伝えていくかは、都合により中止

【早朝 WS】

- ①バードコールハイク
- ②多様性を感じる観察会
- ③ゼロからの火おこし術
- ④朝飯前の手仕事
- ⑤朝日をあびつつ、ミルクティー飲んでごあいさつ
- ⑥生き方を学ぶ自然観察
- ⑦ノルディックウォークで早朝散歩
- ⑧映画「西の魔女が死んだ」 おばあちゃんのお家ツアー
- ⑨みみをすませば～みんなでつくるいのちのものがたり～

■環境教育プレゼンテーション

■当日募集ワークショップ

■JEEF(日本環境教育フォーラム)の集い

■JEEF 理事の何でも相談所

【(公社)日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2011(通算 25 回)】

- テーマ：「これからの日本の復興に環境教育がどういう役割を果たすのか」
- 日時：2011 年 11 月 19 日(土)～21 日(月)
- 参加人数：188 人
- 主催：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省／文部科学省／国土交通省／林野庁／経済産業省／山梨県／日本環境教育学会
- 全体会 1
 - ・パネルディスカッション

「これからの日本の復興に環境教育がどういう役割を果たすのか」

【ワークショップ】

- ①自然体験型環境教育基礎講座 ※
- ②企業・NPO・学校連携の環境教育を考える VOL.2
- ③質的データ分析(QDA)という手法を学ぶ
- ④農耕暮らしの自然学校
- ⑤森林療法にできること～森林セルフケアの可能性
- ⑥里山応援ネットワークを作ろう！ワークショップ
- ⑦0 から仕事を作る～体験からチームを作る～
- ⑧『ワールドカフェ～自分発！未来をかける価値観考～』
- ⑨修験道×環境教育～音色と歩き、体で精神性を感じる～
- ⑩震災救援組織(RQ 市民災害救援センター)の作り方 ※
- ⑪ESD×CSR：サステナビリティ教育指針を体感！ ※
- ⑫やったらできた！エネルギー系企業と弱小 NPO のコラボ
- ⑬環境と文化・歴史・科学 etc.の複合…「旧暦」入門
- ⑭自然感を耕す 自分と里地里山里水が元気になるワーク
- ⑮生物多様性まんだらカードゲーム 今年は小学生版
- ⑯PLT, WILD, WET の日本での可能性を考えよう
- ⑰日本的、アジアの自然観を整理し、環境教育に活かす
- ⑱原発と環境教育～思ったことを話すことからはじめよう～
- ⑲狩猟×環境教育～森と野生動物と人のつきあい方～

※の印は主催者企画ワークショップ

【早朝 WS】

- ①ゼロから始める火起こし術
- ②森林療法のプログラム体験～樹林気功と運動療法
- ③冬鳥と出会って、いのちを感じる
- ④キープ協会「アニマルバスウェイ」見学ツアー

■環境教育プレゼンテーション

■当日募集ワークショップ

■人と組織の紹介処

【(公社)日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2012(通算 26 回)】

- テーマ：「アジアの一員として、日本が今できること～think global actlocal:『リオ+20』の年に考える～」
- 日時：2012 年 11 月 17 日(土)～19 日(月)
- 参加人数：177 人
- 主催：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 主管：公益財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター

■後援：環境省／文部科学省／国土交通省／林野庁／山梨県／日本環境教育学会

■全体会

「アジアの一員として、日本が今できること
～think global act local:『リオ+20』の年に考える～」
・基調講演「リオ+20の概要と、NGOの成果と課題」
・パネルディスカッション
「これからの日本の復興に環境教育がどういう役割を果たすのか」

【ワークショップ】

- ①自然体験型環境教育入門講座
- ②自然学校人事担当養成講座～ほしい人材を育てよう～
- ③実施無し
- ④ブーさんの森をデザインしよう！
- ⑤考えよう！伝えよう！森の”いのち”の知恵と力
- ⑥食から考える価値と暮らし
- ⑦ねん土をつかって、超ミニアースオープンをつくろう！
- ⑧農村と若者～そと者、若者による農山村の活性化～
- ⑨一次産業と社会貢献事業～金の切れ目が本気のはじまり
- ⑩「住み聞き」を考えよう ～身近に環境教育の場をつくる～
- ⑪「都市と自然の融合～両方見て、初めて見える環境教育！～」
- ⑫木質バイオマスを首相官邸へ～さらなる普及をめざして～①
- ⑬地域に根ざすということについて PBE への招待
- ⑭田舎で生きる！ライフモデル作りワークショップ
- ⑮バトゴニアから学ぶ！持続可能な働き方と歩み方
- ⑯環境教育×植物療法～自然の恵みをヒトの力に～
- ⑰都市型環境教育 小学生向け紫外線プログラム体験
- ⑱文学から見た農的暮らしの可能性
- ⑲理想のシゴト？自然学校職員の本音と未来像
- ⑳身近な環境の総合的“明察”…内なる「マインド」を作ろう！
- ㉑農が X を助け、X が農を助ける～半農半 NPO でいこう～
- ㉒エコとエネのつながりを考えるカードゲームワークショップ
- ㉓森で教える国語・算数・理科・社会をつくっちゃおう！
- ㉔木質バイオマスを首相官邸へ～さらなる普及へ向けて～②

【早朝 WS】

- ①科学と環境教育プログラム「静岡のなりたち」
- ②みどりとともに！泥んこ遊び de 苔玉作り
- ③キープ協会「アニマルパスウェイ」見学ツアー

■環境教育プレゼンテーション

■当日募集ワークショップ

■人と組織の紹介処

【(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2013(通算 27 回)】

■日時：2013 年 11 月 16 日(土)～18 日(月)
■参加人数：204 人
■主催：公益社団法人日本環境教育フォーラム
■主管：公益財団法人キープ協会環境教育事業部
■協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
■後援：環境省／文部科学省／国土交通省／経済産業省／林野庁／山梨県／日本環境教育学会

■全体会

- ・キーノートスピーチ
- ・ワールドカフェ方式ディスカッション
- ・「環境教育に関わる諸団体から最新のメッセージを聞く」

【ワークショップ】

- ①自分の仕事を創る技術～IP の新しい可能性を考える～
- ②地域に根ざした環境教育 Place-Based Education
- ③モミでご飯をたこう！～空き缶で「ミニかまど」づくり～
- ④宇宙船地球号体感インプリ：20 世紀天文少年の誘い
- ⑤環境教育をカードゲームで考えてみよう～エネルギー編
- ⑥「原発事故のはなし3」デモとディスカッション
- ⑦質的データ分析(QDA)を体験してみよう
- ⑧企業と NGO の幸せな関係をながく続ける秘訣
- ⑨楽器を使ったプレゼンテーションを考えよう
- ⑩知っておきたい基礎知識～命・自然・地球・宇宙～
- ⑪日常の現場や暮らしに持ち帰る「運営と振り返り」
- ⑫持続可能な地域のための必要なくみを考えよう
- ⑬継承したい日本の自然観～自然体という生き方～
- ⑭事例から学ぶ ESD(持続発展教育)の基本と実践
- ⑮ゲームで生態系を学ぼう！
- ⑯ウィルダネスファーストエイド～仲間を守るその技術～
- ⑰パフォーマンス評価の世界の潮流
- ⑱15 年のノウハウ伝授！身近な素材でプログラムづくり
- ⑲小学校で環境教育やりたい人 集まれ！
- ⑳伝える技術 KP 法(紙芝居プレゼンテーション法)

【早朝 WS】

- ①アイソン彗星いつ観るか…清里、澄んだ空…今でしょ！
- ②ロシアからの旅人に会おう
- ③清里トレラン

【特別企画】

- ・アクアマリンふくしま移動水族館

【自主企画】

- ・プレゼンテーションで世界を変える！～TED の世界～
- ・野外フェスは環境教育のツールになりえるか！？
- ・スマホ、テレビゲームの年齢制限でも考えてみよう
- ・JEEF 理事バンド(バンド演奏)

■10 分プレゼンテーション

■当日募集ワークショップ

■人と組織の紹介処

【(公社)日本環境教育フォーラム清里ミーティング 2014(通算 28 回)】

■テーマ：「ESD の 10 年後の環境教育」
■日時：2014 年 11 月 15 日(土)～17 日(月)
■参加人数：186 人
■主催：公益社団法人日本環境教育フォーラム
■主管：公益財団法人キープ協会環境教育事業部
■協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター

■後援：環境省／文部科学省／林野庁／山梨県／日本環境教育学会

■全体会

- ・キーノートスピーチ
- ・基調報告 テーマ【ESD ユネスコ世界会議を終えて】
- ・ワールドカフェ方式ディスカッション【私と ESD】

【ワークショップ】

- ①自然の中で遊ぶゲーム
- ②再び、地域に根ざした環境教育(PBE)について
- ③企業のESDのあり姿/あるべき姿を考えよう
- ④「協働」による里山再生の取り組み～〇〇×〇〇～
- ⑤エネルギー大臣になろう～ゲームで考える環境教育～
- ⑥ウィルダネスファーストエイド～仲間を守るその技術
- ⑦楽器を使ってプレゼンテーションしよう
- ⑧語ろう！考えよう！「企業のESD宣言」
- ⑨電子絵本を活用したESDプログラムを考える
- ⑩国連の新しい目標(SDGs)は環境教育普及につながる？
- ⑪体感、出航！宇宙船地球丸「苦手は天文」ぶっ飛ばせ
- ⑫“自然学校と林業”環境教育は暮らし生業に直結せよ！
- ⑬イノベーション創発型ワークショップのデザインを学ぶ
- ⑭清泉寮で自然音楽野外フェスティバルをつくる
- ⑮教育と刃物～ナイフを使う喜びを子どもたちに！
- ⑯シニア自然大学を作ろう
- ⑰自己肯定感を育むESD～これからの学びへの提案～
- ⑱GEMSの新しい使い方～森の中で 図書館の片隅で～
- ⑲KP法(紙芝居プレゼンテーション法)の工夫共有ワークショップ
- ⑳小学校で環境教育をやろう！Part II

【早朝 WS】

- ①朝の楽しい修行：ヨガと勤行
- ②環境教育と持続可能な開発の日米比較研究中間報告②
- ③エンカウンターグループ「今ここ」
- ④清里朝散歩

■10 分プレゼンテーション

■当日募集ワークショップ

■人と組織の紹介処

【(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2015(通算 29 回)】

■テーマ：「地域をつくる環境教育」
■日時：2015 年 11 月 14 日(土)～16 日(月)
■参加人数：174 人
■主催事務局：公益社団法人日本環境教育フォーラム
■現地開催事務局：公益財団法人キープ協会環境教育事業部
■協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
■後援：環境省／文部科学省／林野庁／山梨県／日本環境教育学会
■特別協力：環境省グッドライフアワード

■全体会

- ・キーノートスピーチ「農的生活学校の学び方」
- ・ワールドカフェ方式ディスカッション「地域をつなぐ環境教育」
- ・「世代を超えて一緒に〇〇おう！」

【ワークショップ】

- ①広範囲に拡散した外来種の市民による調査と駆除対策
- ②獣害問題は、環境教育の対象になるのか。
- ③エネルギー大臣になろう！～ゲームで考える環境教育～
- ④ご当地 GEMS～地域に根ざしたアクティブ・ラーニング～
- ⑤自然学校の 30 年を振り返りこれからの 20 年を考える
- ⑥環境教育の基礎…自然とは？命とは？
- ⑦「PBE：地域に根ざした学び」を考える
- ⑧「若者が地域で生きる・暮らす」を考える 3 時間
- ⑨里山ってなんだろう～その意味、価値を考える～
- ⑩野生生物と共生する環境地域づくりの進め方
- ⑪持続可能な未来のための科学技術とのつきあい方
- ⑫サステイナブル・ツーリズム国際基準を自然学校に！
- ⑬体感、出航！宇宙船地球丸。「天文は苦手」吹っ飛ばせ
- ⑭探そう磨こう！環境教育の魅力を伝えるコトバ
- ⑮野外フェスに環境教育を広げる『NATCU FES』
- ⑯地域が蘇る「森林資源を循環させる経済」を考える
- ⑰廃校利用の自然学校の経営
- ⑱ビギナーのための自然体験型環境教育プログラム

【早朝 WS】

- ①朝の楽しい修行：ヨガと瞑想と歌
- ②手づくりのもみ殻コンロ、ペール缶ぬかくどの実演！
- ③ロシアからの旅人と再会しよう～冬鳥との出会いを求めて～
- ④清里朝散歩

■10 分プレゼンテーション

■当日募集ワークショップ

■人と組織の紹介処

【(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2016(通算 30 回)】

■テーマ：「環境教育の未来を考える！あなたの次の一歩は？」
■日時：2016 年 11 月 5 日(土)～7 日(月)
■参加人数：196 人
■主催事務局：公益社団法人日本環境教育フォーラム
■現地開催事務局：公益財団法人キープ協会環境教育事業部
■協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
■後援：環境省／文部科学省／林野庁／山梨県／日本環境教育学会
■全体会

- ・スライドショー「これまでの環境教育をふりかえる」
- ・パネルディスカッション「日中韓スウェーデンの環境教育比較研究」
- ・全員参加型ディスカッション

【ワークショップ】

- ①持続可能な社会づくり、企業の役割とは
- ②持続可能な暮らしの日常を体験する「いつもの暮らし」
- ③『エディブル・スクールヤード』をはじめよう！
- ④環境教育業界×私たち、若手の関わり方
- ⑤祝 30 周年☆清里ミーティングにまつわるコピーを作る
- ⑥自然をフィールドとした父親参加型のわんぱく子育て

- ⑦エネルギー大臣になろうワークショップ
- ⑧清里ミーティング「30+30」
- ⑨森の中でサイエンス～動物たちの生きる知恵
- ⑩「環境」＝“地球”を感じてみよう！天文のイロハ for 環境教育
- ⑪CEPA って何の略？地域をつくる湿地教育を考える
- ⑫森が薫る燻製づくり
- ⑬一流を学ぶ・・・第一印象と名刺交換
- ⑭「水の足跡」－スペース・ワークを使って－
- ⑮環境・CSR 活動評価チェックリストを使ってみよう
- ⑯海の森からの贈り物～海藻おしば～
- ⑰告知・広報に活かす”伝わる”、”伝える” 文章講座
- ⑱環境教育と家族
- ⑲アクティビティを再生する
- ⑳野外での事故に備えよう！「野外・災害救急法」の体験
- ㉑いま「公害教育」を考える
- ㉒「いつもの暮らし」を環境教育プログラムに！
- ㉓「自然から学ぶ場と人の全国フォーラム」中間検討会
- ㉔SDGs でつなげる地域と活動ワークショップ
- ㉕銀粘土で作る リーフモチーフの純銀アクセサリー
- ㉖幻想は捨てよう！NPO と行政のミゾを埋める 8 0 分
- ㉗火を囲み、みんなで作る「居場所」づくり
- ㉘マジックで環境教育に活用する
- ㉙拡げよう！特定外来生物駆除活動の輪！
- ㉚持続可能な未来のための科学技術とのつきあい方 2

【早朝ワークショップ】

- ① ヨーガと瞑想
- ② 甲虫の玉虫でアクセサリーを制作してみよう
- ③ 冬鳥と出会い、地球を感じよう
- ④ 清里朝散歩

■10 分プレゼンテーション

- ポスターセッション
- 当日募集ワークショップ
- 人と組織の紹介処

【(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2017(通算 31 回)】

- テーマ：「組織・活動を変革する 17 の視点 ～SDGs でつくる私のアクション～」
- 日時：2017 年 11 月 18 日(土)～20 日(月)
- 参加人数：137 人
- 主催事務局：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 現地開催事務局：公益財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省、文部科学省、林野庁、山梨県、日本環境教育学会、持続可能な開発のための教育推進会議
- 全体会
 - ・パネルディスカッション「SDGs に向けて教育は何ができるか」
 - ・自分×SDGs で次のアクションを考える
 - ・全員参加型ディスカッション～SDGs でつくる私のアクション～

■ワークショップ

【対話型ワークショップ】

- ① フライング・ワイルドの体験と SDGs との繋がり
- ② S D G s ×わたし
- ③ 協同学習の手法で環境教育をスキルアップしよう！
- ④ 環境思想を考える
- ⑤ 生きものの魅力で心を動かしたい
- ⑥ 森林療法×環境教育～癒しを持つ SDGs への可能性
- ⑦ つなげよう！自然体験型エコツアーと SDGs
- ⑧ CSR プログラム事例で学ぶ社会的インパクト評価
- ⑨ パートナリシップでつくる「キョサト」SDGs 企画
- ⑩ 環境教育研究&実践から考える SDGs

【体験型 (E)・フレッシュバーソンス (F) ワークショップ】

- ① 持続可能な「ミライ」をつくる人材育成の在り方：F
- ② 森林療法～調和する自己の持続可能性：F
- ③ 中止：野外活動を 120%楽しむ図鑑の読み方・使い方：F
- ④ 火を囲み、みんなで作る「居場所」づくり：E
- ⑤ KP 法で SDGs を整理してみよう：E
- ⑥ 17 の SDGs で柔軟な頭を作るゲームを：E
- ⑦ アナログゲームで環境を学ぼう！：E
- ⑧ 「教える」より「学びあう場」を創ろう！：E
- ⑨ 中止：自然を使った深く自分と繋がる体験ワークショップ：F
- ⑩ 「うんこ」から自然を見る ～教材化の面白さと可能性：F
- ⑪ 中止：環境ポータルサイト「BLUESHIP」の活用方法：F
- ⑫ 自然をフィールドとした父親参加型のわんぱく子育て：E
- ⑬ 既存のプログラムを SDGs サイズ大作戦！GEMS 編：E
- ⑭ SDGs と森里川海、そしてライフスタイル：E
- ⑮ 目からウロコ、環境教育のためのミニマ天文基礎講座：E
- ⑯ 公害と SDGs JEEF・あおぞら財団の協働 FW：E
- ⑰ 一体感を生み出す魔法の技術！アイスブレイク三連発♪：E
- ⑱ 音楽フェス×環境教育@清里 超実践体感ワークショップ

【早朝ワークショップ】

- ① 森林療法プログラム体験～樹林気功とグラウンディング
- ② ヨーガと瞑想
- ③ 甲虫の玉虫でアクセサリーを製作してみよう
- ④ マインドフルな自然体験
- ⑤ 冬鳥と出会い、地球を感じよう

■ポスターセッション

- 当日募集ワークショップ
- 人と組織の紹介処

【(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2018(通算 32 回)】

- テーマ：「ESD + SDGs ～ 未来を変える教育を考える」

- 日時：2018 年 11 月 16 日(金)～18 日(日)
- 参加人数：146 人
- 主催事務局：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 現地開催事務局：公益財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省、文部科学省、林野庁、山梨県、ESD 活動支援センター、持続可能な開発のための教育推進会議、日本環境教育学会

■全体会

- ・SDGs がもたらす共創の可能性
- ・パートナーシップで未来を変える！
- ・アイデアは地球を変える

■ワークショップ

【体験型ワークショップ・1】

- ① SDGs に果たす ESD の役割
- ② 自然観察で知る生物多様性、命のあり方、人という生物
- ③ 学生版清里ミーティング実施に向けた作戦会議
- ④ 棚田米を土鍋で炊いて、味わい、お米の魅力を深める
- ⑤ JOLA ～アウトドアで「未来のための人づくり」～

【対話型ワークショップ】

- ⑥ SDGs for School 未来の教育デザイン
- ⑦ エコヴィレッジ、災害に強いオフグリッドの居場所作り
- ⑧ 研修「設計」のススメ
- ⑨ 公害の経験から考える SDG s 達成に向けた課題
- ⑩ 災害支援と自然学校の役割
- ⑪ 美しい棚田を未来につなぐ 11 年の環境教育の実践
- ⑫ ESD による地域創生の可能性
- ⑬ エコ・自然塾
- ⑭ 野外フェス×環境教育の可能性をさぐる作戦会議

【体験型ワークショップ・2】

- ⑮ フルスイングの発酵ワークショップ
- ⑯ 読本「森里川海大好き！」を活かした環境教育へ
- ⑰ 森カフェ GEMS マタギさんと算数・自然の恵み山御膳
- ⑱ 歌の力、体感ワークショップ
- ⑲ UNCO ゲーム開発のためのβ版体験ワークショップ
- ⑳ 教員向けエコ×エネ体験ツアーの手応えと可能性
- ㉑ 森で元気に！キープの「森林療法」ちょこっと体験☆
- ㉒ ハラオチ納得！ジオガシキッチン教室
- ㉓ 「地域を活かした教育力」
- ㉔ 「九州・沖縄で暮らし続ける！」地域に根ざす SDGs

【早朝ワークショップ】

- ① ロシアからの旅人と再会しよう
- ② ヨーガと瞑想
- ③ 山珊瑚で根付を作ってみましょう
- ④ 清里朝散歩

■ポスターセッション

- 当日募集ワークショップ
- 人と組織の紹介処

【(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2019(通算 33 回)】

- テーマ：「正解がない問いと共に生きる時代の人づくり」
- 日時：2019 年 11 月 15 日(金)～17 日(日)
- 参加人数：120 人
- 主催事務局：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 現地開催事務局：公益財団法人キープ協会環境教育事業部
- 協力：山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター
- 後援：環境省、文部科学省、林野庁、山梨県、ESD 活動支援センター、関東地方 ESD 活動支援センター、持続可能な開発のための教育推進会議、日本環境教育学会

■全体会

- ・SDGs に捉われすぎているませんか？
- ・Learn (主体的な学び) と Unlearn (学びほぐし)

■ワークショップ

【90 分ワークショップ・1】

- ① 社員を全員ファシリテーターに
- ② インタープリテーションをより効果的にする指標作成プロジェクト
- ③ 地球温暖化を逆転する 100 の方策ドローダウン紹介
- ④ 全く新しいアイデアで地球を救う本気スーパー脳嵐
- ⑤ 「静」のプログラムの可能性

【150 分ワークショップ】

- ⑥ スマホから考える世界・わたし・SDGs
- ⑦ カードゲーム「新」エネルギー大臣になろう！
- ⑧ わたしたちの地域、みんなでどうする？～各地の事例から学び合おう！～
- ⑨ 野外フェス×環境教育の可能性をさぐる作戦会議
- ⑩ 持続可能に海の資源を守るための取り組みを考える
- ⑪ 身体感覚の気づきから持続可能な社会について考えよう
- ⑫ 環境教育×中小企業！～パートナーシップで持続可能な事業をめざす～
- ⑬ エコロジカル・シンキング カードで発想しよう！
- ⑭ 自然観察の基本、環境教育の基礎をおさえよう

【90 分ワークショップ・2】

- ⑮ 見ることに頼りすぎているかもしれない私たちへ。
- ⑯ 古今東西！環境教育ミーティング！
- ⑰ ライブ&ダイアローグ：自然の摂理を歌おう！
- ⑱ ゲノム編集食品について問い合う
- ⑲ 林業×チームビルディングの可能性は？

【早朝ワークショップ】

- ① 美しい玉虫の甲羅でアクセサリーを作ってみましょう。
- ② 渡り鳥に出会い、季節や自然を感じよう！
- ③ 清里朝散歩♪
- ④ ヨーガと瞑想

■ポスターセッション

- 当日募集ワークショップ
- 人と組織の紹介処

【(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2020(通算 34 回)

- テーマ：「遊んで、笑って、世界を変える」
- 日時：2020 年 12 月 6 日(日)～12 日(土)
- 参加人数：303 人
- 主催事務局：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 会場：オンライン
- 後援：環境省、文部科学省、林野庁、山梨県、ESD 活動支援センター
関東地方 ESD 活動支援センター、
持続可能な開発のための教育推進会議、日本環境教育学会
- 全体会
 - ・全体会 1「自然遊びで育つ“たくましさ”」
 - ・全体会 2「世界の環境教育実践から学ぶ」
- ワークショップ
 - 1. インタープリテーション再入門
～インタープリターが伝えるコミュニケーションと探求の極意
 - 2. トヨタ山田とグリーンウッド辻が贈る!!
トヨタ白川郷自然学校×校長山田氏×環境教育×学生=素敵な未来?
 - 3. どうなの? どうする? 「プラスチックごみ」ワークショップ
 - 4. 渡り鳥と出会い、自然を知り、文明を考える
 - 5. 地域に大学を! ～地方創生に向けた教育改革
 - 6. オンラインでもハンズオン! ～GEMS 入門編
 - 7. 大人だって絵本が好き! ～SDGs とつながよう
 - 8. 地域のビジター体験を充実させるためのガイド
/ インタープリターのコンピテンシーとは
 - 9. CSO ラーニング卒業生のイマ
～NPO・NGO でのインターンを通じた人材育成
 - 10. 「複製」を始めてみよう
 - 11. コロナ時代の幕開けを語ろう～自然学校語り部屋
 - 12. 伝わるオンラインプレゼンテーション!
～デジタル環境のあたらしいありかえ。
 - 13. 気候変動をさまざまな角度から見てみよう!
～SDGs・環境教育・地方公共団体の観点から
 - 14. 『やまねミュージアム』オンラインツアーに挑戦!
～オンラインにおける展示施設の可能性を考える
 - 15. あつまれ! 清里の森の小劇場
おうちからでも、森を楽しみたい人集まれ～!
 - 16. 環境教育×NVC～持続可能な未来を創る「対話」のちから
 - 17. グリーンスクール卒業生(日本人女性初)が語る「気候変動」と「環境教育」
 - 18. 馬との暮らし・自然の中で育つ、ちょっと気になる子ども達
～感覚統合×自然体験・ホースセラピー
 - 19. 「森」×「健康」～リトリートの場としての森の可能性を考える
 - 20. JICA 海外協力隊カフェ～ベリウス・ホンジュラス・キルギス編
 - 21. 東アジア地球市民村食堂
～食事の風景から探る私たちの自然観と共通性
 - 22. ユースと語ろう! 学校×環境教育のこれから
 - 23. 自分を満たす暮らしとは?
自分だけのモバイルハウスをデザインしてみよう!
 - 24. SDGs にはこう取り組むのがいいね! をみんなで考えよう。
 - 25. 地域に根ざした環境への取り組みとは
～インドネシア駐在歴約 20 年の矢田さんをお迎えします
 - 26. 美しい棚田を未来につなぐ 14 年の環境教育の実践、土鍋で棚田米も炊こう
 - 27. プラスチックさよなら大作戦～阿部ゼミ生に力を貸してください!!
 - 28. 【リレートーク】「読んでほしい」「知ってほしい」環境のこと
 - 29. 豊かな森を造る×炭素×地域活性化
 - 30. は・ず・む♪アイデア出しミーティング
～3M のチームワークソリューションを学ぼう!
 - 31. 「エシカル・ツーリズム」の可能性～観光×「海ごみ」でまちづくり
 - 32. あなたが国の代表に!? なりきり国際環境会議!
 - 33. 海や自然と深くつながる。
化石燃料を使わないサステナブルモニターツアー報告
 - 34. コロナ禍から先頭を切った音楽フェス「ハイレイフハケ岳」
開催の決断と、その感染抑制の実際を赤裸々に伝え振り返る 90 分
 - 35. ベル×青年海外協力隊・環境教育隊員の活動ご紹介!
 - 36. 内側と外側から自分とつながる Forest タイム

■10 分プレゼンテーション

■その他のプログラム

1. 情報交換会
2. 理事×リジ×リジ=?
3. 長沢裕×辻英之 特別ワークショップ
4. 市民のための環境公開講座&特別座談会
5. ブータンの朝 LIVE
6. 自然学校 NIGHT
7. ふりかえり会

【(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2021(通算 35 回)

- テーマ：「遊んで、笑って、世界を変える」
- 日時：2021 年 12 月 5 日(日)～11 日(土)
- 参加人数：313 人
- 主催事務局：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 会場：オンライン
- 後援：環境省、文部科学省、林野庁、山梨県、国立青少年教育振興機構、
ESD 活動支援センター、関東地方 ESD 活動支援センター、
NPO 法人持続可能な開発のための教育推進会議、
一般社団法人日本環境教育学会
- 全体会
 - ・全体会 1「2030 まであと 9 年。環境・教育で何に取り組む?」
 - ・全体会 2「『共に生きる』を改めて考える～これからの生物多様性～」
- ワークショップ
 - 1. 森好きが育つ場所白神山・山梨～森のすごさと地域の課題と未来～
 - 2. アートの入り口～もっと教育に遊びゴコロを! ～
 - 3. どうしたらいいの? 「行動変容」実行へつなげるための方法を考えよう
 - 4. ポッドキャスト公開収録! 環境教育ラジオ『私の本棚』
 - 5. 「保育と自然・環境教育」情報交換会

6. 未来の海を絵に描こう! ～あなたが願うのはどんな海?～
7. 自然学校スタッフの日常のスキルは、被災地支援のコーディネーターに役に立つ
8. ミニチュアお節のペーパークラフトで、『敬い』と多様性を考えよう
9. 占い×SDGs～地球と僕らの未来を占う
10. 大人だって絵本が好き! ～おもしろそう! そうなんだ! を絵本と共に～
11. 子どもたちに「ライフジャケット」を! ～思いはただ 1 つ…子どもたちの命を守る
こと～
12. いま実現したい「LIFESHIFT」の生き方はたまたま
13. 地域や社会の課題を SDGs で整理して考えてみよう。
14. 地域の宝をどう磨く? ～「そこならではの価値に光をあてる～インタープリター奮闘
中!～」
15. 地球と仲良く暮らすための 4 つの鍵 (KEYS) ! ? SDGs ウォッシュで終わらない
環境教育を考えよう～環境教育のオルタナティブ「Earth Education (地球教育)」の
モデル・プログラム「EARTHKEEPERS」の試みを通して～
16. こども達が自分の力を発揮できる環境をつくろう! ～ヘンデコな世界観のワーク
ショップの事例から～
17. 自然は自分の中にある～身体のリソース、使えますか? ～
18. ハケ岳自然ふれあいセンター館内オンラインツアー&ビジターセンター展示・教材
情報交換会
19. 服・ファッションからサステナビリティを考えるワークショップ
20. 東京港野鳥公園で「渡り鳥と出会い、自然を知り、文明を考える」野鳥観察
21. 野外フェス×環境教育～ハイレイフハケ岳の可能性を探る作戦会議～
22. ねんどをこねて未来を変える!
23. 気候変動を自分事化して考えるために
24. 企業との協業を考えるゆるっとカフェ～企業と環境とサステナビリティと～
25. 学びの役割再考～社会変容につながる全体地図を考えるキックオフ
26. レジ袋の有料化って実際どうなの? あなたの考えを教えてください!
27. みちのく自然学校カフェ
28. みんなで「つくる」ソーシャルアクションガイドブックの制作と共有～超文化祭より
29. デイリー シェアリングネイチャー (自然に気づくネイチャーゲーム)
30. 虐待、貧困、不登校…様々な困難を抱える子どもたちへ、私たちは何が出来るのか?
～「子どもの課題×自然・野外」作戦会議
31. 全部見せます! 答えます! YouTube チャンネル・You 虫部のトライ&エラー
32. 自然学校を立ち上げるときのポイントと連携のあり方考える
33. 小学生から始める 地球のけんりせんげん～ゴミに命を吹き込もう～
34. 大変だけれど楽しい本づくり
35. 自然学校が行う学童保育の紹介
36. 仕事×家庭×自然学校若手経営者のワークバランスを考える
37. 教育について考えよう
38. CSO ラーニング卒業生のイマ～NPO・NGO でのインターンを通じた人材育成～
39. 「飛び出す江戸の町並み図絵」ペーパークラフトで、RRRDR と資源、文化の多様性
を考えよう

■10 分プレゼンテーション

■その他のプログラム

1. 情報交換会
2. トークショー1「長距離自然歩道を歩こう!」
3. トークショー2「捨てない暮らしとレトロイノベーション」
4. 市民のための環境公開講座
5. 自然学校ナイト
6. 自然学校オンラインツアー

【(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2022(通算 36 回)

- テーマ：「全国環境教育者と出会う! つながる!」
- 日時：2022 年 12 月 9 日(金)～11 日(日)
- 参加人数：297 人
- 主催事務局：公益社団法人日本環境教育フォーラム
- 会場：9 日～10 日 Zoom (オンライン開催)
11 日 大妻女子大学千代田キャンパス (対面開催) ※Zoom でも配信
- 後援：環境省、文部科学省、林野庁、山梨県、独立行政法人 国立青少年教育振興機構、
ESD 活動支援センター、関東地方 ESD 活動支援センター、
一般社団法人日本環境教育学会、
特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議 (ESD-J)
- 基調講演
 - ・空や雲を楽しみながら、地球の未来を考えよう
- トークセッション
 - ・トークセッション1「環境教育×STEAM 部会 成果報告会」
 - ・トークセッション2「誰ひとり取り残さない環境教育を考える」
- ワークショップ
 - 1. 子どもの可能性を伸ばす学校教育
 - 2. サステナブルな観光地域への歩みをすすめていくには? ～『サステナブルな未来へ
～人と自然の出会いの場づくり 親子で挑戦!～』報告を糸口に～
 - 3. 生物多様性ミライ会議～わかめと環境保全をつなぐには～
 - 4. 心地よいオンライン空間をつくるコツ
 - 5. 「世界がもし 100 人の村だったら」から話し・考える SDGs
 - 6. 渡り鳥に気づき、自然を知り、文明を考える。
 - 7. 中国の皆さんと IP4 コマまんが作ってみたい! 日本の皆さんも作ってみよう♪
(事例紹介&作成ワークショップ)
 - 8. いのちをつなぐ～国産ジビエの取り組み
 - 9. 遊びで育つ放課後の時間! 自然学校が行う学童保育の紹介!
 - 10. 美しい棚田を未来につなぐ 16 年の環境教育の実践、土鍋で棚田米も炊こう～出版社
からの「棚田くんが行く」の秘話と地に足のついた生き方を棚田と体から考えよう!
 - 11. 見えない世界を見てみよう! 双眼鏡の世界「Seeing beyond」
 - 12. 新しい感性で環境問題に挑む
 - 13. VR と、「おせち」江戸の町並み「大っきな鏡餅のおきあがりこぼし」などのペーパ
ークラフトとで、自然への敬いや異文化理解、資源・サーキュラー・エコノミー
(CircularEconomy)・RRRDR を考えよう
 - 14. 自然や馬の力に頼ったインクルーシブな場づくりを考える～ホースセラピーの現場を
ヒントに差別のない社会をつくる
 - 15. クリニカルアートへようこそ「いろいろな線と色で遊ぼう」
 - 16. 体験の質を高める～「ホンモノ」とは何か?
 - 17. ポスト SDGs を見すえて、組織が組んで事業化を考える作戦会議
 - 18. 「学びの役割」再考・研究部会～私達は社会を変える環境教育が出来ているか?
 - 19. 自然体験・環境教育のフェスティバル「清里オーガニックキャンプ 2023」作戦会議

■JEEF 設立 30 周年記念講演会

- ・対談「自然と子どもの関係性～成長に必要な子どもの体験～」

(公社)日本環境教育フォーラム 清里ミーティング 2023(通算 37 回)

■テーマ：「これからの日本型環境教育の提案～2030 ネイチャーポジティブ～」

■日時：2023 年 12 月 1 日（金）～3 日（日）

■会場：公益財団法人キープ協会 清泉寮、山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター

■参加人数：96 人

■主催事務局：公益社団法人日本環境教育フォーラム

■後援：環境省、2030 生物多様性枠組実現日本会議、文部科学省、林野庁、山梨県、
独立行政法人国立青少年教育振興機構、ESD 活動支援センター、
関東地方 ESD 活動支援センター、NPO 法人持続可能な開発のための教育推進会議、
一般社団法人日本環境教育学会

■全体会

- 1：人々が生き、自然を守る「ネイチャーポジティブ」が目指す世界
- 2：連携が生むシナジー 自然資本を活用する

■ワークショップ

1. 「生物多様性×自然学校」を考える
2. 第一回おうち自然学校全国フォーラム！
3. 竹を使って手作りまきすを作ろう♪
4. 知っておきたい生物多様性の基礎、基本
5. 学校教育＋社会教育＝持続可能な社会の創り手となる時間！
6. 隠れて見えないインパクト 気候変動をとめるキーワードを暮らしから探そう
7. ～インタープリターズガイドブック出版記念～「インタープリテーション」が広げる可能性
8. 体験から始めるネイチャーポジティブ～子どもたちが概念を掴みやすくなる工夫～
9. ウェルビーイングと SDGs 二つ並べて考えてみよう
10. 見て☆描いて☆楽しむ☆ネイチャージャーナリング
11. ネイチャーポジティブ x システムデザイン めぐるがみえる南三陸町の適用可能性について

【早朝ワークショップ】

1. 清里朝さんぽ
2. 渡り鳥に出合おう！
3. 馬の暮らし型の環境教育～ホースセラピーと発達凸凹の子どもたち

【清里満喫オプションツアー】

- ・牧場見学コース
- ・ヤマネミュージアム見学コース

■ポスターセッション

■人と組織の紹介処（コンシェルジュデスク）

■リクルートコーナー

清里ミーティング 2024 報告書

発行者：公益社団法人日本環境教育フォーラム（JEEF）

〒116-0013

東京都荒川区西日暮里 5-38-5 日能研ビル 1 階

TEL：03-5834-2897 FAX：03-5834-2898

URL：<https://www.jeef.or.jp/>